

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格
 第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財產
 第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件
 第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財產ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年
 三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有
 財產ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ
 第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

〔一〕世傳御料編入 明治二十三年十一月二十八日
宮内省告示第二十七號

左ノ通世傳御料ニ編入セラレタリ候テ公告ス

明治二十三年十一月二十八日

勅 諭

朕皇室典範ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經左記ノ土地物件ヲ世傳御料ト定ム

御名 御 所

明治二十三年十一月二十七日

宮内大臣子爵土方久元

名	稱	府 縣 名	國 名	市 郡 名
宮	城	東 京 府	武 藏 國	東 京 市
赤 山	御 所	同	同	同
青 山	御 所	同	同	同
濱 洲	宮	同	同	同

芝 離 宮	同	京 都 府	山 城 國	京 都 市
京 都 皇 宮	同	同	同	同
二 條 離 宮	同	同	同	同
桂 離 宮	同	同	同	葛 野 郡
修 學 院 離 宮	同	同	同	愛 宕 郡
函 根 離 宮	神 奈 川 縣	相 模 國	足 柄 下 郡	足 柄 下 郡
正 倉 院 寶 庫	奈 良 縣	大 和 國	添 上 郡	添 上 郡
三 年 町 御 料 地	東 京 府	武 藏 國	東 京 市	東 京 市
高 輪 御 料 地	同	同	同	同
上 野 御 料 地	同	同	同	同
南 豐 島 御 料 地	同	同	同	南 豐 島 郡
函 根 御 料 地	神 奈 川 縣	相 模 國	足 柄 下 郡	足 柄 下 郡
敵 傍 山 御 料 地	奈 良 縣	大 和 國	高 市 郡	高 市 郡
度 會 御 料 地	三 重 縣	伊 勢 國	多 氣 郡	多 氣 郡
富 士 御 料 地	山 梨 縣	駿 河 國	西 八 代 郡	西 八 代 郡

第四類 第一章 土地 皇室及官有財產 水道

天城御料地	千頭御料地	萩原御料地	丹澤御料地	三方御料地	相川御料地	木曾御料地	七宗御料地	段戸御料地	錦織御料地
靜岡縣	靜岡縣	山梨縣	靜岡縣	山梨縣	靜岡縣	山梨縣	山梨縣	山梨縣	山梨縣
伊豆國	遠江國	信濃國	甲斐國	駿河國	相模國	甲斐國	甲斐國	甲斐國	三河國
那加田	伊智原	下伊那	上伊那	東伊那	西伊那	南伊那	北伊那	東伊那	西伊那
那加田	伊智原	下伊那	上伊那	東伊那	西伊那	南伊那	北伊那	東伊那	西伊那

五百三十六

上川御料地 北海道廳 石狩國 上川郡

右御料地ノ面積段別及境界ハ御料局ニ保存スル所ノ圖面ヲ以テ標進トス
右宮城皇宮御所離宮置置庫ハ其土地建築物ヲ包含シ其動産ノ世傳御料ニ編入スヘキモノハ別ニ之ヲ定ム

第七十三 土地收用法 明治二十二年七月三十一日公布

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義

法律第十九號 土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得
土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定

第四類 第一章 土地 皇室及官有財産 水道

五百三十七

- シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス
 - 一 國防其他兵事ニ要スル土地
 - 二 政府、府、縣、郡、市、町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地
 - 三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地
 - 四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地
 - 五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地
 - 六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地
- 第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ內務大臣ニ具申シ內務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
- 前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ內務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
- 第四條 內閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ
- 國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

- 第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
- 若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ
- 第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ
- 地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル
- 第八條 工事ノ仕樣及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕樣書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕樣書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ
- 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知リ得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
- 四 收用又ハ使用ノ時期
- 五 損失補償金額並其内譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ

土地收用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヨシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ

土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁墻柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物

ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實數アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヨシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限り各別ニ之ヲ補償スヘシ

書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ竣テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ノ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様並補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノカ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及

關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得
若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ
郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行
後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所
有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章 土地收用審査委員

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方
長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ
第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用
審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ
第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土
地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル
鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ
其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不
用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルト
キハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ
前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サ
ハルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シ
タルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特
ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖

細縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戶長之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百二十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

〔二〕土地收用協議會規則 明治二十三年七月二十六日公布

法律第五十四號

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵西鄉從道

法律第五十四號

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕樣及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業者ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

八年第三百三十三號達六初編第六十三二

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者

官ノ起業者ニ係ルトキハ其主任官吏 及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕樣ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ開クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ開キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ開クモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サハル者アルトキハ工事ノ仕樣及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀開セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

〔二〕土地收用法ニ依リ起業者ル工事ヲ認定シ起業地ヲ公告スルニ方リ收用スヘキ土地ノ

第四類 第一章 土地 皇室及官有財産 水道

細目ヲ示サ、ルモノ地所番號公告方明治二十二年十二月九日 内務省訓令第四十二號北海道廳府縣
内閣ニ於テ土地收用法ニヨリ起業スル工事ヲ認定シ官報ヲ以テ起業地ヲ公告スルニ方リ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示サ、
ルモノハ各其管内ニ係ル郡市町村名及字番號地目ヲ公告スヘシ

第七十四 水道條例 明治二十三年二月十三日公布 法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年二月十二日

内閣總理大臣兼内務大臣伯爵露山縣有朋

法律第九號

水道條例

- 第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用
地トハ水源地、貯水地、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ
- 第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス
- 第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長
官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一 水道事務所ノ所在地
- 第二 水源ノ位置河川、池、湖、又ハ掘井、及其水量ノ概算、但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、唧水場ノ位置、但圖面ヲ添フヘシ

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込

第六 水壓ノ概算

第七 工事方法

第八 起工並竣工期限

第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算

第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀
ヲ與フヘシ

第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ
其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良、水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當
ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ

第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ

設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査

スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相

當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ

家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得

第十四條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届

出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

第十五條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノハ爲メニ共用給水器ヲ設ク

ヘシ

第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴

收スヘカラス

第二章 道路 橋梁

第七十五 鐵道條例

〔一〕私設鐵道條例中政府トアル場合閣令ヲ廢ス 明治二十三年十月九日 閣令第七號

明治二十年五月閣令第十四號ヲ廢止ス

〔二〕鐵道工事請負規則 明治二十三年十月十八日 鐵道廳告示第一號

鐵道廳工事請負規則左ノ通り相定ム

鐵道廳工事請負規則

第一章 競争契約

第一條 工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者若クハ其契約ヲ結ハントスル者會計規則第六十九條ノ證明ヲ爲サントスル

トキハ自己ノ履歷書並ニ二年以來從事シタル工事ノ種類及施行場所ヲ記シタル書面其他其工事ノ監督者若クハ請負ヲ

命シタル者ノ證明書ヲ鐵道廳ニ差出スヘシ

會社製造所前會等ニシテ官ノ認許ニ依リ營業スルモノハ其認許狀寫ヲ以テ前項ノ證明書ニ代用スルコトヲ得

第二條 工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第七十三條ニ依リ鐵道廳ノ揭示若クハ公告シタル入札期日ノ三

日前マテニ前條ノ證明書ヲ競争執行ノ主務官吏ニ差出シ其許可ヲ受ケテ工事ノ設計任譯書契約書案及現場ノ實況ヲ熟

視スヘシ

第三條 鐵道廳主務官吏ニ於テ第一條ノ證明書ヲ不充分ト認ムルトキハ入札期日前ニ之ヲ差出人ニ還付シテ訂正セシム

ヘシ訂正セシムルモ尚不充分ナルトキハ其者ノ入札ヲ禁止ムヘシ

第四條 會計規則第六十九條第二項ノ保證金ハ入札期日ニ於テ入札ヲ爲ス前入札人ヨリ主務官吏ニ差出スヘシ

第四類 第二章 道路 橋梁

公債証券ヲ以テ保證金ヲ納ムルトキハ前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ其金高ヲ算シ且書入証券ヲ添付スヘシ此場
合ニ於テ利札ハ利子ノ拂渡期目前ニ下付ス

第五條 入札書ニハ工事ノ種類及請負金額ヲ記シ其次ニ入札人ノ職業住所ヲ記シ署名捺印スヘシ他人ノ代理トシテ入札
スルトキハ委任狀ヲ添付スヘシ

第六條 入札保證金ハ開札ノ後落札者ノ分ヲ除キ直ニ還付ス
落札者ノ入札保證金ハ契約保證金ヲ納ムルトキ之ヲ還付ス

第七條 落札者ハ開札後四十八時間内ニ會計規則第八十條及本規則第二條ノ契約書案ニ依リ契約ヲ締結スヘシ

第八條 契約保證金ハ工事落成シテ鐵道廳主務官吏ノ検査ヲ終ル後還付スルモノトス

第二章 契約ノ條件

第九條 會計規則第八十條ニ記載スル契約締結者ノ保證金處分及契約ニ要スル其他ノ條件ハ本章ノ規定ニ準據シ各工事
ノ契約書案ニ之ヲ記入スヘシ

第十條 請負人契約ヲ爲シタル後左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其契約ヲ解クヘシ

第一 鐵道廳ノ許可ヲ得ズシテ約定ノ日限ニ起工セサルトキ

第二 見込違若クハ其他ノ事故ヲ申立テ契約ノ條件ヲ變更セントスルトキ若クハ解約ヲ請フトキ

第三 失踪スルトキ

第四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産若クハ家資分散ノ處分ヲ受ケタルトキ

前項第一第二ノ場合ニ於テ起工前解約スルトキハ違約金トシテ契約保證金ノ内ヨリ請負金高百分ノ十二相當スル金額
ヲ鐵道廳ニ收入シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第三第四ノ場合ニ於テ起工前解約スルトキハ違約金トシテ契約保證金ノ全額ヲ鐵道廳ニ收入ス

第十一條 請負人起工後前條第一第二第三若クハ第四ノ事項ニ當ルトキ又ハ鐵道廳ノ許可ヲ受ケズシテ工事ヲ休止スル

トキ其他契約ニ違反シタルトキハ契約ヲ解キ契約保證金ヲ鐵道廳ニ收入ス
前項ノ場合ニ於テ工事既成ノ部分アルトキハ鐵道廳ハ其既成部分ニ對シ相當ト認ムル費額ヲ支拂ヒ其部分ノ受渡ヲ爲
スヘシ但既成部分ニシテ豫定ノ設計及任譯ニ違ヒタルモノアルトキハ鐵道廳ハ相當ノ期限ヲ示定シ請負人ノ私費ヲ以
テ之ヲ取拂ハシムルコトヲ得

第十二條 請負人其期限内ニ取拂ヲ爲サ、ルトキハ既成部分ハ官有トシ之ニ要シタル費額ハ本人ノ損失トス
工車ニ使用スヘキ材料ハ豫メ主務官吏ノ検査ヲ受クヘシ
主務官吏ニ於テ材料ノ品質不良ニシテ用ニ堪エズト認ムルトキハ其使用ヲ禁止メ更ニ相當ノ材料ヲ供給セシムヘシ之
カ爲メ増費ヲ要スルトキハ請負人ノ負擔トス

第十三條 工事施行中鐵道廳ニ於テ豫定ノ設計若クハ任譯ニ違ヒタル部分アリト認ムルトキハ期限ヲ定メテ改造ヲ命ズ
ヘシ

第十四條 請負人其改造ヲ爲サ、ルトキハ第十一條ノ例ニ依ル

第十五條 天災事變其他ノ故障ニ由リ請負人契約上ノ期限ヲ延ハサントスルトキハ鐵道廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

第十六條 請負人ノ違約ニ由テ生スル直接若クハ間接ノ損害ハ鐵道廳ニ於テ賠償ノ責ニ任セス

第十七條 請負金ハ工事ノ全部落成シテ主務官吏ノ検査ヲ終ル後之ヲ支拂フモノトス但工事ノ全部落成前請負人ヨリ既
成ノ部分ニ對シ支拂ヲ請求スルトキハ會計規則第六十七條及第六十八條ノ規定ニ依ル

第十八條 本規則第十條乃至第十六條ニ掲クル條件ノ外特種ノ工事ニ對シ特別ノ條件ヲ必要トスルトキハ之ヲ契約書案
ニ記入スヘシ

第十九條 隨意契約

第二十條 隨意契約ノ保證金ハ本規則第四條第二項第三項及第八條ノ例ニ依ル

第四類 第二章 道路 橋梁

第十九條 隨意契約書案ハ會計規則第八十條第八十一條及本規則第十條乃至第十七條ノ規定ニ準據シテ之ヲ製スヘシ
 第二十條 一口五百圓未満ノ隨意契約ヲ爲スニ當リ會計規則第八十二條第一ノ書類ヲ以テ契約書ニ代用スルトキハ鐵道
 廳ニ於テ工事ノ設計任證書ヲ請負人ニ示シ請負金高及請負人ノ職兼任所氏名等ヲ其書類ノ末尾ニ記入セシムヘシ
 第二十一條 會計規則第八十二條第一第三ノ書類ヲ以テ工事請負ノ隨意契約書ニ代用スル場合ニ於テ請負人ヲシテ
 本規則第十條乃至第十六條ニ掲グル條件並ニ其他ノ條件ヲ履行セシムヘキ必要アルトキハ之ヲ書面ニ認メ請負人ニ署
 名捺印セシムヘシ

第七十六 軌道條例 明治二十三年八月二十五日公布
 法律第七十一號

朕軌道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
 内務大臣伯爵西鄉從道

法律第七十一號

軌道條例

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務
 大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得
 第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴
 メ又ハ更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ

土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得

第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入
 ス

第七十七 土木工事起業者保證金納付方

明治二十四年三月二十八日公布
 勅令第二十六號

朕土木工事起業者保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年三月二十七日

内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第二十六號

土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得
 但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ケナシ

○第五類

○第一章 行政警察 警察官吏

〔第七十八〕 警察官及消防官帶劍ノ制 明治二十二年十二月三日公布 勅令第百二十二號

朕警察官及消防官帶劍ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二日

内閣總理大臣公卿三條實美
内務大臣伯耆山縣有朋

勅令第百二十二號

警察官及消防官帶劍ノ制左ノ通定ム

但明治二十四年一月迄ハ從來用フル所ノ刀劍ヲ佩用スルコトヲ得

劍制圖例

名	稱	中身	鍔	柄	鞘	形狀
總	監	鐵	金 唐草	鐵甲 絲金線三條背 面ヲ覆フタル 金具ハ金色地 ハ石目櫻唐草 ヲ置ク	鐵 鍔尼結兒トシ 兩箇ノ鈎鑲ヲ 付ス	如 圖

緒			正			名稱	短劍帶			帶		
消防司補士	消防司令	警部補	消防司令	警部長	警部長		消防司令	消防司令	消防司令	消防司令	消防司令	消防司令
銀線 長サ一寸三分 圓徑中央ニテ八分	同	同	金線 長サ二寸五分 圓徑中央ニテ九分	同	同	總	同	同	同	同	同	
銀線同上 緒綳銀線 同上	同	同	金線九打徑一分五厘 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合 シ總ヲ附ス 緒綳 金線幅三分五厘圓徑四分五厘	同	同	緒	同	同	同	同	同	
同	同	同	如圖	同	同	形狀	同上	同上	同上	同上	同上	

刀			短劍			刀		
警部補	消防司令	警部長	消防司令	警部長	警部長	消防司令	消防司令	警部長
藍草	藍草	藍草	同	同	同	同	同	同
表 黑龍毆草	表 黑龍毆草	表 黑龍毆草	同	同	同	同	同	同
金色徑一寸三分五厘 中央日章ヲ置キ其周 圍ハ腰唐草トス	金色徑一寸三分五厘 中央日章ヲ置キ其周 圍ハ腰唐草トス	金色徑一寸三分五厘 中央日章ヲ置キ其周 圍ハ腰唐草トス	同	同	同	同	同	同
長サ凡ソ三尺五寸幅一寸約草 長サ第一ノ分八寸第二ノ分二 尺二寸ニシテ幅七分其下端茄 子銀ヲ附ス幅又輪幅五分前金 具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス其他 金具總テ金色トス	長サ凡ソ三尺五寸幅一寸約草 長サ第一ノ分八寸第二ノ分二 尺二寸ニシテ幅七分其下端茄 子銀ヲ附ス幅又輪幅五分前金 具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス其他 金具總テ金色トス	長サ凡ソ三尺五寸幅一寸約草 長サ第一ノ分八寸第二ノ分二 尺二寸ニシテ幅七分其下端茄 子銀ヲ附ス幅又輪幅五分前金 具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス其他 金具總テ金色トス	同	同	同	同	同	同

袴			名稱	衣	
消防機關士	消防司令補部	警部補部		消防機關士	消防司令補部
同	同	濃紺絨	同	同	同
白絨幅六分一條	白絨大線同二條 小線ナシ	白絨大線幅八分二條 小線幅一分一條	同	同	同
長及物入同	同	大小靴履ノ上際ニ止ル 大小物入ノ間際各一分 大物入兩股各一分ヲ附ス	同	同	同
同	同	如圖	同	同	同

常		名稱	衣	
總	監		消防機關士	消防司令補部
濃紺絨	同	同	同	同
九打黒毛 糸組徑四 分五厘 胸各五 附ス	大線幅八 黒毛一寸 幅五分 線八分 蛇小 腹組 小線幅 一分五 厘	同	同	同
正線數其他裝式共 表ニ同シ	同	同	同	同
襟幅一寸二分 袖長腕關節ニ止ル 長四寸五分ヨリ下ルコト 全線及背面ハ縫際ニ八分 幅ノ黒毛ヲ附ス 兩脇ノ下端ヲ裂クコト三寸 五分 物入前面ノ左右各一箇ヲ附 ス	同	同	同	同
如圖	同	同	同	同

肩		名	履日	袴夏	衣夏	套外種乙			
警部副	警部副								
消防司令長	消防司令長	總監	同	同	同	同			
同	同	九打金線徑二分五厘	薄白布	同	白布	同			
同	同	略日章銀色中心ヨリ尖頭ニ至ル三分五厘	製式袴ニ同シ但側章ナシ	製式常衣ニ同シ	白色粗絲品質適立	胸部三箇ヲ附ス			
同	同	但金線ヲ八條トス					品質適立	品質適立	品質適立
同	同	金線十二條ノ鎖狀組トシ之レニ略日章三箇及上端一箇ヲ附ス					品質適立	品質適立	品質適立
同	同	長サ凡五寸トス	如圖	同	同	同			
同	同	如圖	如圖	同	同	同			

套外種甲		名	袴短
警部副	警部副		
消防司令長	消防司令長	總監	同
同	同	濃表紺絨	同
同	同	金線徑五分五厘	各其官等相當ノ側章ヲ附ス
同	同	略日章中心ヨリ尖頭ニ至ル三分五厘	
同	同	但金線ヲ八條トス	
同	同	長サ凡五寸トス	長サニ止ル
同	同	如圖	同

章		名		飾		帶	
警部	警部補	總	副總	總	副總	警部	警部補
消防司令	消防司令補	監	視	緋絹絲織	緋絹絲織	消防司令	消防司令補
消防機關士	消防機關士	同	同	同	同	消防司令	消防司令補
同		同		同		同	
金線四條ノ鎖狀組下シ之レニ略日章二箇及上端卸一箇ヲ附ス		緋絹絲織共六寸圓徑一寸五分略日章銀色中心ヨリ尖頂ニ至ル二分五厘帶ノ半面ニ二箇ヲ附ス		略日章ヲ府セス其他ハ同上		同上	
長サ凡五寸トス		長サ凡五尺其兩端各一箇ヲ附ス留金具金色		同上		同上	
同		同		同		同	
同		同		同		同	

(略形略ス)

〔二〕警察官及消防官服裝規則 明治二十三年七月二十九日 内務省訓令第二十七號 府縣(東京府ヲ除ク) 警察官及消防官服裝規則左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 警察官及消防官ノ服裝ヲ分テ正裝禮裝常裝ノ三種トス
- 第二條 正裝トハ正帽正表袴肩章飾帶高冠等官刀正襟手套下襟ヲ著裝スルヲ云フ

第三條 禮裝トハ正帽正表袴肩章刀正襟手套下襟ヲ著裝スルヲ云フ

時立ニ依リ常裝ニ正帽正襟ヲ用井ルヲ以テ禮裝ト爲スコトヲ得

第四條 常裝トハ正帽正表袴肩章刀略襟手套下襟ヲ著裝スルヲ云フ

第五條 消防官ニ在テハ常裝ヲ着用スルトキニ限リ短剣ヲ佩用スルコトヲ得但消防機關士ハ便立之ヲ脱スルモ妨ナシ

第六條 正裝ハ儀式祭典等總テ大禮ノトキ着用スルモノトス其場合概ネ左ノ如シ

- 一 新年發賀
- 一 三大節 新年宴會紀念節 發賀
- 一 天機尙其他拜謁ノ爲メ參内スルトキ
- 一 靖國神社招魂社大祭參拜
- 一 國體式及公式行幸啓御先驅隨供奉ノトキ
- 一 任官叙位叙勳
- 一 一般大禮服用ノ場合
- 一 成規上明文アル場合

第七條 禮裝ハ概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ着用スルモノトス

- 一 宮中ニ於テ御宴ニ陪スルトキ
- 一 通常行幸啓御先驅及供奉ノトキ
- 一 天覽ノ場所ニ臨ミ陪隨スルトキ
- 一 行幸啓ノ場所へ參勤シ若ハ奉送奉迎スルトキ
- 一 正式勅使發備
- 一 政始出陣

- 一 級警費
- 一 任官叙位叙勲ノ御禮及之ニ齊シキ場合ニテ參内スルトキ
- 一 巡閱ヲ行ヒ及巡閱ヲ受クルトキ
- 一 夜會其他賑アル宴會ニ臨ムトキ
- 一 通常禮服及フロックコート着用ノ場合
- 一 自家親屬其他ノ賀儀雜祭
- 第八條 常裝ハ平常勤務ノ際着用スル所ノ服裝トス
- 第九條 已ムヲ得サル場合ニ於テハ國儀式公式行幸啓御先驅ニ參スルトキ任官叙位叙勲ノトキニ限リ禮裝ヲ着用スルコトヲ得
- 第十條 行幸啓ノ道筋警衛及監臨等ノ場合ニ於テハ常裝ニ正帽ヲ用フヘキモノトス
- 第十一條 夏衣ハ炎暑ノ際 凡ソ六月一日ヨリ九月末日マテノ間以下同シ 常表ニ限リ着用スルコトヲ得但夏衣ヲ着用スルトキハ必ス夏袴ヲ着用スルモノトス
- 第十二條 夏袴ハ炎暑ノ際着用スルモノニシテ何レノ服裝ニ在テモ袴ニ代用スルコトヲ得
- 第十三條 甲種外袴ハ何レノ服裝ヲ論セス用雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ着用スルモノトス尤防寒ノ爲メ特ニ室内ニ於テ着用スルコトヲ得但儀式祭典ノ場所及上官ノ居室内ニ在テハ此限ニ在ラス
- 第十四條 乙種外袴ハ雨雪ノ際甲種外袴ノ上ニ着用スルモノトス尤時宜ニ依リ乙種外袴ノミヲ着用スルモ妨ケナシ
- 第十五條 覆面ハ雨雪ノ際甲種又ハ乙種ノ外袴ニ附屬シテ用フルモノトス
- 第十六條 日履ハ炎暑ノ際常帽ニ限リ之ヲ用フルコトヲ得但便宜垂布ヲ除クモ妨ナシ
- 第十七條 履紐ハ何レノ服裝ヲ論セス職務執行ノ場合ニ於テ必ラス之ヲ用フヘシ其他ノ場合ニ於テハ各自ノ便宜ニ依ル
- 第十八條 刀ハ室内内外ヲ問ハス上部ノ釧ヲ刀帶ノ鈎金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ヲ掛ケサルヲ法トス

- 第十九條 刀帶ハ其正表ヲ著スルトキハ表ノ上ニ常表ノトキハ表ノ下ニ締ムルモノトス
 - 第二十條 正緒ハ正裝禮裝ノトキ常緒ハ常裝ノトキ刀柄ニ裝著ス
 - 第二十一條 短袴ハ何レノ服裝ニ在テモ長靴ヲ穿ツトキ着用スルモノトス炎暑ノ際ハ夏袴ヲ短袴ニ製シ着用スルモ妨ケナシ
 - 第二十二條 手套ハ何レノ服裝ヲ論セス白色ノモノヲ用フヘシ
 - 第二十三條 下襟ハ何レノ服裝ニ在テモ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ
 - 第二十四條 靴ハ長短ヲ問ハス黒色革製トシ袴下ニ穿ツヲ法トス但長靴ハ常裝ニ限リ袴上ニ穿ツモ妨ナシ
乘馬者ニ在テハ短靴長靴共ニ必ス拍車ヲ附著シ其短靴ヲ穿ツトキハ袴ニ「草」^{エー}「エー」ヲ附著スヘシ
 - 第二十五條 勳章其他ノ記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用ス其佩用方ハ明治二十一年十一月勅令第七十六號及明治二十二年二月七日勅令告示第一號ニ據ルヘシ
 - 第二十六條 奉送奉迎御先驅正式勅使警備其他儀式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ
 - 第二十七條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ乘馬者ニ在テハ後鞍ニ締結シ徒歩者ニ在テハ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス
- 第七十九 巡查召募**
- (一) 陸軍現役滿期下士巡查志願ノ者採用方 明治二十二年七月十七日 内務省訓令第三十號 廳府縣(東京府ヲ除ク) 陸軍現役滿期下士ニシテ巡查志願ノ者ハ學術試驗ヲ要セス採用スルコトヲ得
 - (二) 巡查看守精勤證書授與規則 明治二十二年五月二十五日 内務省訓令第二十一號 廳府縣(東京府ヲ除ク)
- 巡查看守精勤證書授與規則

第一條 精勤證書ハ巡查守ノ精勤ヲ證シ其名譽ヲ表スルモノトス
 第二條 精勤證書ハ警察署長若クハ典獄ノ具狀ニ依リ廳府廳長官審査ノ上之ヲ授與スルモノトス
 第三條 精勤證書ハ左ノ諸項ニ適合スルモノニ授與スヘシ

一 行狀方正

二 勤務勉勵

三 事務熟達

四 滿三年奉職

第四條 第三條ニ適合ノモノト雖トモ左ノ事項ニ該當スルモノハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス

一 官吏服務規律ニ違背シ若クハ巡查懲罰例ニ依リ月俸一箇月百分ノ二十以上ノ罰金ヲ科セラレタルモノ及ヒ月俸百分ノ二十以下ノ罰金ト雖トモ一年二回以上ニ及ブモノ

二 奉職後刑注其他ノ法規則ニ依リ處分ヲ受ケタルモノ

第五條 精勤證書ヲ所持スルモノニシテ退職後再任ヲ求ムルトキハ試験ヲ爲サスシテ採用スルコトヲ得但年齡制限及體格試験ハ此限ニアラス

第六條 水火災若クハ盜難等ニ罹リ精勤證書ヲ亡失シタルトキハ再ヒ之ヲ授與スヘシ

第七條 精勤證書ヲ受ケタル後其行狀修ラヌ若クハ第四條ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ其證書ヲ沒收スルコトアルヘシ

第八條 精勤證書ハ左ノ輪形ニ依リ調製スヘシ
 用紙爲ノ子紙

(一ノ中ハ號モ失書)

六寸

第 號

「巡查
守」精勤證書

「廳府縣
巡查
守」氏名

右行狀方正ニシテ勤務勉
 勵事務ニ熟達ス因テ此證
 ヲ付與スル者也

年 月 日

「官位勳爵氏名印」

尺 寸
一 尺

〔三〕 巡査部長ヲ置キ其待遇

明治二十三年三月二十八日 内務省訓令第十六號府縣(東京府ヲ除ク)
明治二十一年十月三十一日訓令第六四〇號警察官吏配置及勤務規則第六章ニ據リ勤務上ノ監督ヲ補助セシムル爲巡査部長ノ職ヲ置キ月俸十圓以上ノ巡査ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得巡査部長ハ巡査ノ上班トシ警部補ニ亞クノ待遇ヲ受クヘキモノトス

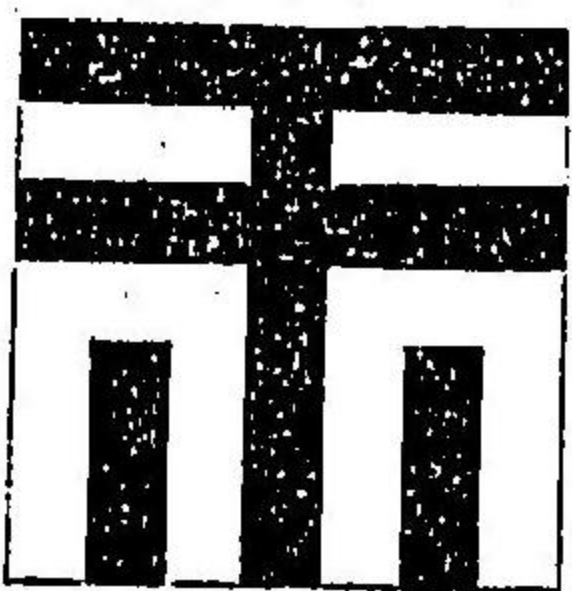
巡査部長ハ上表並外套ノ左胸ニ左ノ輪形ノ徽章ヲ付スヘシ

〔ハ班〕

製式

方一寸ノ白絨ニ幅一分五厘

ノ緋絨ヲ以テ之レニ縫着ス



〔四〕 銀行諸會社其他ヨリ請求ニヨリ配置スル巡査ノ費用徴収方及支出方

明治十四年四月十八日 内務省達令第二十二號

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議會ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡査ノ配置ヲ請願スル者ハ自今開屆請願ノ場所ヘ配置不苦候條該費收支方ハ國庫下渡金地方稅等ニ連帶セス別ニ其帳簿ヲ製シ毎年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相達候事

但本支配置ノ巡査ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之條取付可シ

〔五〕 銀行諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡査充用方

明治二十三年十月廿三日 内務省訓令第三十八號警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十四年四月 内務省達令第二十二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡査ハ地方稅支辦ニ屬スル巡査ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徴收シ地方稅雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

〔第八十〕 巡査看守俸給支給規則中改正

第四十五ノ七項ニ掲ク

〔二〕 警部巡査給與規則第八條刪除

明治二十二年四月十一日 内務省訓令第十五號廳府縣

明治十年當省令第九十三號達警部巡査給與規則第八條ヲ刪除ス

第八十一 警察費

〔二〕 貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金地方稅ニ編入シ警察機密檢徵費ヲ地方稅ヨリ支辦スル關

令中ヲ刪除 明治二十二年十一月十六日

明治二十一年八月 内務省達令第二十八號

明治二十一年八月 内務省達令第二十二號第一項ノ制註ヲ削除ス

第二章 警察上取締ニ關スル規則

● 沿革要領

明治二十二年十二月法律第三十一號ヲ以テ集會條例第七條ヲ改正ス○二十三年七月法律第五十三號ヲ以テ集會政社法ヲ制定ス

第五類 第二章 警察上取締ニ關スル規則

開令第十二號
八初編第七十
五ノ一項ニ掲ク

第八十二 集會及政社法 明治二十三年七月二十五日公布

朕集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣伯喬山縣有朋
内務大臣伯喬西鄉從道

法律第五十三號

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
届書ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年齢ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラサレハ政談集會ノ發起人タルコト

ヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者ヲラシムルコトヲ得ス

第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ監視セシムルコトヲ得

第五類 第二章 警察上取締ニ關スル規則

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條 凡ソ集會ニハ武器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ヲ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ

二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ全會ヲ解散セシメテ單ニ其ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

五 第四條第十條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前條ニ同シ

第十六條 第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同シタル者及其ノ之ヲ制止セサル發起人ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ
政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ之ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ
政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ
第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八時以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス
第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用非ルコトヲ得ス
第二十八條 政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス
第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付

議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、ルトキ又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其ノ役員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十二條 第二十三條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐偽ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十三條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十四條 第二十八條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十五條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用非タル者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十六條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ實ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用非ス
第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス
第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

第八十三 火藥取締規則

第一號公達ハ
初編第八十ノ
一項ニ掲ク

〔一〕火藥賣買營業許可其他屆書差出方 明治二十二年五月十日
明治十八年第一號太政官達ニ依リ差出ス火藥賣買營業許可及其他ノ届ハ自今海軍火藥工廠ニ送付スヘシ
〔二〕火藥拂下 陸軍省訓令甲第九號陸軍府(東京府ヲ除ク)
當省火藥類拂下ノ體從前砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ取扱來候處自今東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ニ於テ取扱候條
此旨營業人へ遠方取計フヘシ
但拂下手續ノ儀ハ從前ノ通

第八十四 遺失物取締規則

● 同指令

● 得遺失物處分ノ件 同指令 明治二十二年十一月十五日
兵部假留監伺
明治十年十二月二十七日山梨縣ヨリ官廳内得遺失物處分ノ儀ニ付同ニ對シ官廳内遺失物ハ一箇年間領置レ物主ナキ
トキハ官沒スヘシト御指令相成亦同十六年六月十九日京都府ヨリ獄舍周圍内ニ於テ金品ヲ發見シ所有主不明ナル

モノハ沒收ノ處分ヲ爲シ可然哉ノ旨ニ對シ伺ノ通ト御指令相成候ニ付左ノ疑義相伺候
一遺失物ヲ沒收スルニ官廳内ト獄舍周圍内トニ依リ一箇年ヲ待ツト待タサルトノ區別アルカ如シ此官廳トハ則チ府
縣廳若クハ警察署等ヲ指スモノニシテ監獄署ハ即チ官廳ト雖モ獄舍周圍内ニ包含シテ此官廳内ニハ在ラサルモノ
トナシ京都府ヘノ御指令ニ從ヒ取計可然哉
一若シ監獄署ハ獄舍周圍内ニ在ラストスレハ則チ一ノ監獄周圍内ニ於テ吏員職務ノ場所ハ官廳トナシ囚徒服役工場
及監房ノ牆内ハ獄舍トナシ之ヲ區別シテ此處分ヲ爲スヘキ哉
一前項區別ニ從ヒ吏員職務ノ場所ニ遺失物アルトキハ之ヲ警察署ヘ同附シテ人民ヘ廣告等ノ手續ヲ爲サス只之ヲ監
獄署ニ領置シ一箇年ノ後ニ至リテモ申出人ナキトキハ沒收シテ然ルヘキ哉
(内務省)指令 明治二十二年十二月十日
場所ノ區別ニ拘ハラヌ總テ警察署ニ交付スヘシ

第八十五 決闘罪ニ關スル件 明治二十二年十二月三十日公布

朕決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

法律第三十四號

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓

第五類 第二章 警察上取締ニ關スル規則

以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

第八十六條 賭博犯行政警察處分ノ件ヲ廢ス

朕明治十七年第一號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義
司法大臣伯爵山田顯義

法律第十七號

明治十七年第一號布告ヲ廢ス

〔一〕法律第十七號頒布前賭博犯管轄裁判所ニ送致方
明治二十二年六月十二日
本年法律第十七號ヲ以テ明治十七年第一號布告廢止ニ就テハ右法律頒布前ニ係ル賭博犯ニシテ其未タ處斷ヲ經サルモノハ管轄裁判所ニ送致ス可シ

附錄

街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締規則標準廢止

明治二十三年十月三十一日

内務省訓令第
四十號廳府縣

明治十九年當省訓令第第七號ハ自今廢止ス

○第六類

○第一章 監獄 獄吏

第八十七 監獄則改正 明治二十二年七月十三日公布
勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月十三日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
内務大臣伯爵松方正義

勅令第九十三號

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
- 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
- 五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘖啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監北海道ニ在ル及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ殿ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

四 滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者

五 滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分テ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ

服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以內農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ

其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分

シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分

ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿

一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニ

シテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ン

ト請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請

フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一八一日ノ食糧

- 一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者
- 一 麥 十分ノ六 五合乃至六合 作業ニ服スル者
- 一 同 四合 作業ニ服セサル者
- 一 同 三合 十歳未満ノ幼者
- 一 茶 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍等ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以内讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキハ又ハ親屬故舊ニ回答セ

ント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發附付與スルコト

ヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之

ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除ク

ノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病

室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ

檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付

ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名

ヲ記シタル木榜ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課

ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 閉室 閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鈇ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス
 鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地
 上ヲ轉ハヌモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ
 第四十六條 施獄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鉄ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ
 解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施獄期限ニ算入セス
 第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ視察
 スルコトアルヘシ
 第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免ス
 ルコトヲ得
 第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置
 スルコトヲ得
 第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四
 條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得
 第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム
 第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス
 (一) 監獄則施行細則 明治二十二年七月十六日
內務省令第八號
 監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章 規程

第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ
 第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ
 房內揭示ノ事項ヲ説示スヘシ
 第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解レ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ
 一 在監人ハ五三和頌ヲ主トシ常ニ教令ヲ遵守スヘシ
 一 教誨時間ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 刑事被告人ヲ拘禁スル
監房ニハ此項ヲ除ク
 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁側圍等ヲ掃除スヘシ
 一 寢蓆若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ説語騷擾又ハ濫リニ起歩スヘカラス但費間ト雖放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交
 談スヘカラス
 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ狼麩ニ汚ル
 カ如キ所爲アルヘカラス
 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘラス
 一 許可ヲ得スシテ物件ヲ受授貸借スヘカラス
 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ費夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ病者タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
 第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證明スヘシ

第六類 第一章 監獄 獄吏

- 第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人へ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得
- 第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル
- 第七條 總テ監房ニ入ルハ典獄之ヲ監視シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ
- 第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ選房ノ際通身ノ検査ヲ爲スヘシ
- 第九條 通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ選房セシムル場合ハ此限ニ在ラス
- 第十條 男子ノ檢身ハ看守長監視シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長監視シ女監取締之ヲ行フヘシ
- 第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ監視スヘシ但看守長ノ監視ハ一晝夜三回以上タルヘシ
- 第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ
- 第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ
- 第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ日數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ検査スヘシ
- 第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名簿簿ニ記入シ仍本人ニ告知スヘシ
- 第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名簿簿ニ照シテ其氏名等ヲ問札シ釋放スル旨ヲ宣渡スヘシ 刑事被告人ニシテ放免保釋及貸付スヘキ者アルトキモ亦同シ
- 第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ印シシムヘシ
- 第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通譯スルコトヲ得サランメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス
- 第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名簿又ハ完告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

- 第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ權威紙シ之ニ封印ヲ捺スヘシ
- 第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ
- 第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監督ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ 假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其監票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ送致スヘシ
- 第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ
- 第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ
- 第二十五條 已トテ得サル事故アリテ一時限外ニ出シトコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取札シテ許可スルコトアルヘシ
- 第二十六條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判定定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ
- 第二十七條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取札シテ許可スヘシ
- 第二十八條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判定定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ宣渡シ監票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ
- 第二十九條 甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル監票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ
- 第三十條 前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ其地監獄ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ズ其執行中ハ看守ヲシテ殿ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自表若用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ズ但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ズ但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設クヘシ

開室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ曙モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

密室及開室ハ一室一人ヲ限トス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ塙壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ開室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ陸尉ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米九工煉化石工石碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工鑿工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開鑿採礦土方石工耕運搬若クハ監獄ノ用ニ限リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二四毎ニ聯絆シ噴雨ヲ聞ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此例合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ雖キト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ密房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ選房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寝ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床選房就役罷役就寝其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ至監一齊ニ動止セシム

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ贈給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ス但其贈給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 木椀
- 一 箸
- 一 飯器

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

- 一 貯水器並ニ飲器 木製
- 一 唾壺 木製又ハ竹製
- 一 便器 木製大小二種但監房ニ附置ノ穢糞スルモノニハ此器ヲ用ヒス
- 一 小箒 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
- 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常に清潔シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ厠固竝ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常に清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體表類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ購買ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髪ヲ短縮セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ淋瀝ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其居室監房者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其預防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察官ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及贈給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其所有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ據リ病症及其因由竝ニ死亡ノ年月日時ヲ名簿簿ニ記載スヘシ若シ瘵死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日時場所死狀等ヲ名簿簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假令シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

親屬選地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ選送スルコトヲ得但選送費ハ親屬ノ自辨トス

第六類 第一章 監獄 獄吏

第八十二條 假釋シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其葬儀ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘送スルモノトス但郵便稅ハ自辨トス
第八十四條 官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ
第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行順シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ不正不潔ノ文意アルヤ否ヲ詳査スヘシ
第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及縁由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス
接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ假刑監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ容貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會ヲヘシ

第八十七條 辯護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限り訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限り病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及煙草ヲ除キ監獄内ニ於テ炊爨ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精

檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 檢査ノ爲メ解離シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第九十二條 免刑閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章 賞譽

第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺藍色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左袖肩間ノ表面ニ縫着スルモノトス

第九十六條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

- 一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス
 - 二 書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス
 - 三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタ、シムルコトアルヘシ
 - 四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増加ス
 - 五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得
 - 六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外榮ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス
- 第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞與ヲ與フルノ限ニ在ラス

- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ警告シタルトキ
- 二 人命ヲ救授シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
- 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ申未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得 數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ鈎ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施鈎期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ鈎ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 鈎ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施鈎期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其鈎ヲ免除スルコトヲ得

第一百五條 假ニ鈎ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ從シ其假免中經過セシ日數ハ施鈎期限ニ算入スヘカラス

第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ 附則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月名	時限	起	床	監房掃除	飯	午	飯	罷	役	還	房	就	寢	服役時間合計
一月	前六時	六時	一時	一時	七時	十二時	十二時	午後三時三十分	五時	午後八時	八時	七時三十分	七時三十分	
二月	六時	六時	一時	一時	七時	十二時	十二時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時	
三月	五時三十分	六時	一時	一時	六時三十分	十二時	十二時	四時	六時	八時	八時	八時	八時三十分	
四月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	四時三十分	六時三十分	九時	九時	九時	九時三十分	
五月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	五時	七時	九時	九時	九時	九時三十分	
六月	四時	五時	一時	一時	五時	十二時	十二時	五時三十分	七時三十分	九時	九時	九時	九時三十分	
七月	四時	五時	一時	一時	五時	十二時	十二時	五時三十分	七時三十分	九時	九時	九時	九時三十分	
八月	四時三十分	五時三十分	一時	一時	五時三十分	十二時	十二時	五時	七時	九時	九時	九時	九時三十分	
九月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	四時三十分	六時三十分	八時	八時	八時	八時三十分	
十月	五時三十分	六時三十分	一時	一時	六時三十分	十二時	十二時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時三十分	
十一月	六時	七時	一時	一時	七時	十二時	十二時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時三十分	
十二月	六時三十分	七時三十分	一時	一時	七時三十分	十二時	十二時	三時三十分	四時三十分	八時	七時	七時	七時	

備考 一 就役罷役及還房ノ時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人及刑罰被告人ニモ亦本表ヲ適用ス 二 炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寢時間ハ本表ニ依ルノ限リニ在ラス

〔二〕監獄則施行細則所定ノ名籍假出獄證票離形並ニ特赦免幽閉假出獄申渡及賞表授與式
 明治二十二年七月三十一日
 內務省訓令第三十三號
 監獄則施行細則第二條同第二十三條及刑法附則第三十九條ニ所定ノ名籍假出獄證票ノ離形並ニ特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式ノ通相定ム

番 號	典獄 (檢印) 囚人名籍	主檢 書記氏名印
生氏身寄出本 年 留生 月名分地地籍	何國郡市(區)町村座 身分 何 某 某年月生	某府縣郡市(區)町村番地住又ハ何某子弟妻女
刑名及宣告ノ月 日裁判所ノ名稱	何刑若干年月日 何年月日何裁判所ニ於テ宣告	
收監及滿期 ノ年月日	何年月日午前 後何時入監何年月日滿期	
及犯由ノ大略 及犯數	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯ナレハ往年何 罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ	
身 材	長何尺何寸何分肥瘠強弱	
容貌 聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘰癧瘰癧風天 黥刺瘢ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	
營業及親屬 教育及宗門	營業ノ種類及親屬ノ營業住所 父母兄弟及配偶者ノ有無 文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ普ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳	

番 號	典獄 (檢印) 懲治人名籍	主檢 書記氏名印
生氏身寄出本 年 留生 月名分地地籍	何國郡市(區)町村座 身分 何 某 某年月生	某府縣郡市(區)町村番地住又ハ何某子弟妻女
懲治場ニ留置ノ 宣告ヲナセン裁 判所	何年月日某裁判所ニ於テ 若干年月日留置ノ宣告	
入場ノ年月日及 出現ノ期日	何年月日午前 後何時入場何年月日滿期	
入場ノ事由及懲 キニ處斷ヲ經シ 者ナルトキハ其 事由	犯由ノ大略及某裁判所	
身 材	長何尺何寸何分肥瘠強弱	
容貌 聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘰癧瘰癧風天 黥刺瘢ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	
出監及終結 等開獄	何年月日假出獄或ハ免幽閉或ハ減等	
要 摘	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ孔克勞勞者等ノ如キハ其乳兒ノ男女 生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ	

身 材	容貌 聲	營業及親屬	本籍 出生地 姓名	入監 年月日	日 時	裁判所 及 官 氏名	監 獄 番 號	出監 及 終 結	假 出 場	教育 及 宗 門	母 親 及 養 親 之 居 住 及 養 親 之 有 無
長何尺何寸何分肥瘠強弱	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黒白四肢姿態其他斑瘡子癩瘡黒痣癩風天癩 創瘻ノ類及音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス ケル キ ヤ ト ノ ホ ク ロ ナ ア ツ ク	營業ノ種類 父母兄弟及配偶者ノ有無	何國郡市(區)町村座 某府縣郡市(區)町村番地位又ハ何某子弟妻女 身 分 何 某 年 月 生	何年月日午時何時入監 何罪ヲ犯ス共犯者ノ有無前犯ノ有無			此 獄 (檢印) 刑事被告人名籍 主檢 書記氏名印	何年月日某家ニ放逐轉監死亡逃走 病室ニアル者情狀ニ由リ親屬ニ交付スル等ハ此欄ニ詳記スヘシ		何年月日某家ニ放逐轉監死亡逃走 入場ノ時文字ノ知否成ハ爾書ヲナスヲ得成ハ普ク爾書ヲナス 何宗成ハ宗門不詳	住所及營業ノ種類 父母兄弟及配偶者ノ有無

第六類 第一章 監獄 獄吏

教育 及 宗 門	裁判 關係 ノ 事項	保 釋	出 監 及 終 結	要 摘	身 材	容 貌	罪 質 犯 數	刑 名 刑 期	附 加 刑
文字ノ知否成ハ爾書ヲナスヲ得成ハ普ク爾書ヲナス 何宗成ハ宗門不詳	何年月日令狀變換故障上告審問度數	何年月日保釋若クハ賈付	何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送死亡逃走	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ孔兒帶帶者等ノ如キハ其孔兒ノ男女 生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ	名籍ノ様本ニ倣 ヒ詳記スヘシ	上ニ同シ	何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ 何年月日ヨリ執行何年月日満期満期 何年月日間假出獄ヲ許ス		

假出獄之證票

某府縣郡市(區)町村番地位又ハ何某子弟妻女
身
分
何
某
年
月
日
生

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ何年月日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ノ警察署ニ約ネ何日迄ニ到着シテ此證書ノ檢閲ヲ受タル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限内特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住スヘキ地ノ警察署ニ到着ノ上之ヲ差出スヘキ旨申渡シタル事

右ノ通心得サセ假出獄ノ證書ヲ與フル者也

何年月日

典 獄 某 印

特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式

一式場ハ教誨堂又ハ衆囚ヲ整列セシムルニ足ルノ場所ヲ以テ之レニ充ツ臨場官吏ノ席次及ヒ囚人ノ列次ハ左圖ノ如クス

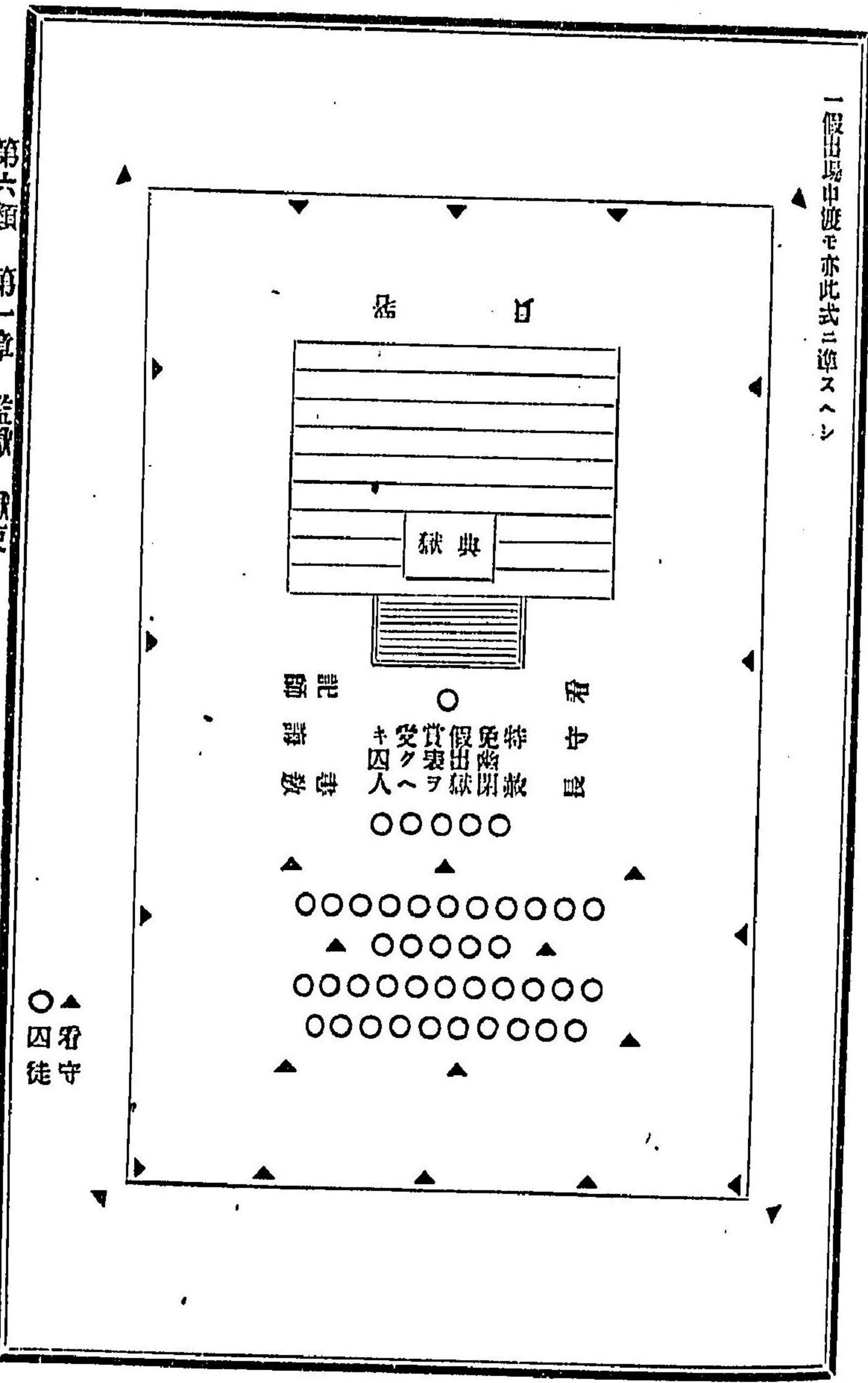
但女囚ハ男囚ト同列セシメス其式場又ハ時日ヲ異ニスヘシ

一典獄席ニ著クヤ看守ハ衆囚ニ號令(氣ヲツケ)シ之ヲシテ齊シク敬禮セシムヘシ式畢テ典獄ノ退席セントスルトキモ亦同シ

一典獄卓ニ著ケハ書記ハ特赦免幽閉假出獄若クハ賞表ヲ受クヘキ囚人ヲ一人ツ、順次ニ呼出シ典獄ノ卓前ニ進マシメ而シテ典獄ハ其中渡書ヲ執リ之ヲ朗讀シテ聽得セシメ免幽閉又ハ假出獄者ニハ尚ホ出獄後ノ心得方ヲ懇諭シテ其證書ヲ授與シ賞表ヲ受クヘキ者ニハ其中渡書ノ附書ヲ添ヘ賞表ヲ授與スヘシ

但賞表ハ白紙ニ包ム等其鄭重ナランコトヲ要ス

一假出獄中渡モ亦此式ニ準スヘシ



〔三〕在監人所持金預金規則ニ依リ拂戻手續 明治二十三年十月二十七日
大藏省訓令第四百十號金庫出納役
在監人所持金ノ備ハ自今預金規則第一條第二項ニ準シ預金トシテ相預リ拂戻ノトキハ即時拂ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

〔四〕監獄則第二十四條ニ依リ處分ノ貨物報告方 明治二十二年八月十二日
内務省訓令第三十五號廳府縣集治監假留監
監獄則第二十四條ニ依リ處分シタル貨物ハ毎年四月三十日限リ前一週年度ノ收支精算書ヲ製シ當省ヘ報告スヘシ

〔五〕監獄慈善ノ用ニ充ツヘキ貨物地方稅ニ編入監獄費ニ支辨方 明治二十三年六月十七日
内務省訓令第二十三號廳府縣
〔沖繩縣ヲ除ク〕
監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈善ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ追テ開ク所ノ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅雜收入ニ編入シ其金額ハ監獄費内譯ニ慈善費ノ科目ヲ設ケ支辨スヘシ

〔六〕監獄ニ係ル建物ハ稟請ヲ要セス處分方 明治二十二年六月二十二日
内務省訓令第二十七號廳府縣
監獄新築改築又ハ監房建設ノトキヲ除クノ外自今監獄ニ係ル建物ハ二十一年十二月當省訓令第二十六號ニ掲ケサルモノト雖モ稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取廻メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

● 伺指令

● 監獄則施行細則ノ件伺指令 明治二十二年七月三十一日
長崎縣衙

一同則第八十七條第二項病室ニ於テ接見ヲ許スハ辯護上之ヲ要スル場合ノミヲ指シタルニアラスシテ通常接見モ病室ニ於テ爲サシムルコトヲ得ル候哉

一前項病室トアルハ刑事被告人モ包含シ居ル候ニ候哉
内務省指令 明治二十二年八月十六日

第一條伺ノ通
第二條刑事被告人モ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

● 未決者領置金ヲ以テ書籍等購求方ノ件伺指令 明治二十二年四月五日
靜岡縣衙

監獄則第十四條第二項ニ領置ノ貨物ヲ以テ正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ストアリ右ハ未決者ニシテ書籍其他飲食物(攝生上ニ要スルモノ)等ノ購求ヲ願出ル者アルトキ之ヲ正當ノ費用ト認メ許可スルモ禁支ナキ筋ニ候哉果シテ然ラハ親屬故舊ヨリ右等ノ費用ニ充ル爲メ金員ノ差入ヲ願出ル者アルトキモ亦之ヲ許可シ可然乎
内務省指令 明治二十二年四月十六日
伺ノ通

第八十八 監獄吏

〔一〕看守及監獄備人ノ分掌例改正 明治二十二年六月二十六日
内務省訓令第二十九號廳府縣集治監假留監
看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 看守ノ職務

- 第一條 晝夜交替シテ看守受持場ヲ巡視スヘシ
- 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
- 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
- 第四條 在監人ノ姓名年輪刑罰名等ヲ配臚スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢問ニ供スヘシ
- 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
- 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルガ如キ所爲ナカラレムヘシ

第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ没リニ通行セシムヘカラス

第九條 監房ノ開閉ヲ常リ其鎖否ヲ點檢スヘシ

第十條 工場器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

第十一條 炊場浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第十三條 密室監禁者及屏風隔室獨居者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ

第十四條 戒具ハ白日點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不長ノ所爲ナカラシムヘシ

第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其動靜ヲ注視スヘシ

第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其動靜ヲ注視スヘシ

第十八條 在監人中ニ急癩病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第十九條 水火風煙等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ

第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染被損等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條 監房炊場浴場廁圍工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十三條 押丁授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ視察シ若シ相扯ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條 在監人ノ押送ヲ常リ其押送中ハ在監人ノ路人ト隣隨シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ齟シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十六條 在監人ヨリ願斷ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ

第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願斷ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ專ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從申シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受ケヘキ者アルトキハ其者ニ對シテ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條 在監人ノ起居動靜動息及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡迴シ修身齊家ノ訓誡ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月卒業ノ科目畢業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報告スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悔ノ狀顯著ナルヲ認知セルトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第六類 第一章 監獄 獄吏

第三十六條 授學上及教師上ニ要スル書籍器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦免刑假出獄假出埠假免懲罰ノ旨渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報告スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名病性徵候治否及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其體質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡迴シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ開室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ提出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者發生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者搬運積積若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ提出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ瘞死レタルモノアルトキハ典獄竝ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢査書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ提出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ直ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ積ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ檢査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫藥器械竝ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ檢査スヘシ

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒備其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 看守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看視スヘシ

第六十一條 作業器械及畜産製品ノ交遊ヲ爲スヘシ

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ檢査スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒備ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヲ受ケ食物ノ配與積表其他給與品及差入品ノ交遊ヲ爲スヘシ

第六類 第一章 監獄 獄吏

- 第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ
- 第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ従事スヘシ
- 第七十條 看守ノ立會ヒテ受ケ作業器械及番品製品ノ受渡ヲナスヘシ
- 第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ
- 第七十二條 獄具及消防具等ヲ監守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ
- 第七十三條 在監人ノ頭髪身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ
- 第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ
- 第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ
- 第七十六條 在監人ノ行狀ノ長否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ
- 第七十七條 炊場浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六章 授業者ノ職務

- 第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ
 - 第七十九條 授業者ヲ督勵シ科租ノ了否ヲ注視スル
 - 第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ
 - 第八十一條 授業ノ科程及工課料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ
 - 第八十二條 授業ノ廢散及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ
 - 第八十三條 授業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ
 - 第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ
 - 第八十五條 毎月授業因ノ動息及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ
- (一) 巡查看守俸給支給規則中改正 (第四十五) 七項ニ掲ク

第二章 囚人護送 囚徒及監獄費

第八十九條 囚人護送

- (一) 重罪輕罪ノ控訴上告ニ因リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタルトキ被告人拘禁中ノ費用並裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用支辨方 明治二十三年十月三十一日 内務省令第五號
重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判行渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十圓トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス
- (二) 監獄官練習所受業生ニ係ル往返旅費日當及其他ノ費用支辨方 明治二十三年八月二十七日 内務省訓令第三十三號廳府縣集
治監假 留監
監獄官練習所受業生ニ係ル往返旅費及滞在中ハ寄宿舍附料ノ實費ヲ以テ日當トシ各廳經費ヨリ其他書籍筆紙墨器具消耗品等ノ費用ハ地方稅監獄費ヨリ支辨スヘシ
但北海道函館縣集治監假留監ニ在テハ運テ其廳經費ヨリ支辨フモノトス

伺指令

- 徒刑囚押送費ノ件伺指令 明治二十二年十月五日 新潟縣伺
今般監獄則ノ改正ニ依リ集治監ヨリ地方獄へ還送相成候徒刑囚女囚押送費ノ儲八十四年三月八日第十七號布告第一條ニ依リ國庫ヨリ支給可相成ハ勿論ノ儀ト相心得可然乎

内務省指令 明治二十二年十月三十日
徒刑囚押送費ノ件ハ本囚ヲ受取ルヘキ府縣ニ於テ改正監獄則施行ノ日ヲ以テ分界トシ其以後ニ係ルモノハ該府縣ノ地方稅監獄費ヨリ支辨スヘキ儘ト心得ヘシ

○第七類

○第一章 戶籍諸則

第九十 戶籍法則

- 〔一〕 市町村人口調査及市町村制ニ記載スル最終調査ノ人口 第六十六ノ三項ニ掲ク
- 〔二〕 華族旅行寄留届出方 明治二十二年五月十六日 宮内省達第八號華族(廣香間)越候及車籠者ヲ除ク 自今内國旅行及寄留ハ願ニ及ハス出發歸來ノ都度府位局長官ヘ届出ヘシ

○第二章 種族

○第三章 家督相續 人事 行旅

第九十一 民法財産取得編中相續 第二百五ノ一項ニ掲ク

第九十二 民法人事編 第二百五ノ一項ニ掲ク

〔二〕 婚姻離婚養子縁組離縁禁治産ニ關スル訴訟規則 第二百十二ノ八項ニ掲ク

第七類 第一章 戶籍諸則 第二章 種族 第三章 家督相續

第九十三 行旅

六百二十六

(一) 海外旅券手数料收入取扱 明治二十三年二月十七日 外務省訓令第一號北海道廳大阪府神奈川兵庫長崎新潟山口福岡廣島島根鹿兒

島沖繩

海外旅券手数料收入ハ凡テ當省ノ管理ニ屬スト雖モ當省ノ委任ニ依リ其(廳府)ヨリ海外旅券ヲ出願人ニ下付スル場合ニ於テハ本年四月一日以降其手数料收入取扱順序ハ明治二十二年十一月十一日大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序ニ從フヘシ

但シ毎月收入報告書ヲ調製シ當省ニ送付スルヲ要ス

(二) 華族旅行寄留届出方 第九十ノ二 項ニ掲ク

第八類

第一章 醫業 賣藥 藥品

第九十四 醫術開業試験委員組織權限

明治二十二年五月七日公布 勅令第六十二號

朕醫術開業試験委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年五月六日

内閣總理大臣 伯耆黑田清隆
内務大臣 伯耆松方正義

勅令第六十二號

醫術開業試験委員組織權限

第一條 醫術開業試験委員ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試験ヲ行フモノトス

第二條 醫術開業試験委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試験委員長

試験委員

宮内省侍醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

第八類 第一章 醫業 賣藥 藥品

六百二十七

其他醫師齒科醫及理化學家

書記 內務局ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 試驗委員長及試驗委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ
委員長事故アルトキハ內務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ

第六條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ內務大臣ニ報告ス可シ

第七條 書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

〔一〕 醫術開業試驗規則中改正削除 明治二十二年五月九日 內務省令第七號

明治十六年十月大政官第三十四號布達醫術開業試驗規則第十一條中試驗主事者トアルヲ試驗委員長ト改メ及該規則中第三條第四條第十二條ヲ削除ス

〔二〕 軍艦長又ハ海軍各廳長ヨリ地方ノ官公私立病院又ハ開業醫ニ患者ヲ依托シタルトキ
其治療費賄費等請求方 明治二十二年六月十三日 海軍省令第四號

軍艦長又ハ海軍各廳長ヨリ地方ノ官公私立病院又ハ開業醫ニ患者ヲ依托シタルトキ其治療費賄費其他ノ費用ハ左表ニ照シ病院又ハ開業醫ヨリ各鎮守府主計部病院課ニ請求シ患者隨テノ爲看護人ノ附添ヲ要スルトキハ其派出ヲ左表ニ照シ各鎮守府衛生會議議長ニ請求スヘシ
明治十六年一月一號第一號達ハ廢止ス

十六年第三十
四號布達六初
編第百十四ノ
一項ニ掲ク

請求ヲ受クヘキ衛生會議議長
主計部病院課所屬ノ鎮守府

道廳府縣名	
横須賀鎮守府	北海道 新編 青森 三重 愛知 靜岡
吳鎮守府	京都 大阪 兵庫 和歌山 福井 石川 島根 岡山 山口 福岡ノ内豊前國諸郡 大分 香川 愛媛 高知 福岡ノ内筑前筑後 佐賀 熊本 鹿兒島
佐世保鎮守府	長崎 福岡ノ内筑前筑後 佐賀 熊本 鹿兒島

第九十五 藥品營業及藥品取締

〔一〕 ロベルト、ゴッポ氏發明ノ結核病治療液ハ藥品營業及藥品取締規則ニ據ル 明治二十四年二月十九日 內務省告示 第四號

普魯士國教授ロベルト、ゴッポ氏ノ發明ニ係ル結核病治療液ハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業及藥品取締規則第二十條第二項ニ據ルモノトス

〔二〕 藥品營業並藥品取扱規則第八條届出方心得 明治二十四年四月七日 內務省令第一號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條届出ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

〔三〕 藥品其他ノモノ手數料第一項及第十三項改正 明治二十二年十一月七日 內務省告示第三十二號

明治十七年十月當省甲第二十七號告示藥品其他ノモノ検査手數料第一項及第十三項左ノ通り改正シ來ル十二月一日ヨリ施行

第八類 第一章 醫藥 賣藥 藥品

二十二年法律
第十號六初編
第百十六ニ掲
ク

告示甲第二十
七號六初編第

一 藥品
一 礦物及金屬

一箇ニ付函數ノ多寡ニ拘ハラズ金五拾錢ノ紙ヲ貼付スルモノハ別ニ一箇ニ付金壹錢ヲ徴シ印紙貼付ノ上仍ホ告示號ヲ請求スルモノハ一葉ニ付金貳拾錢ヲ徴ス

定価分析金壹圓乃至金拾圓
定価分析金壹圓乃至金拾圓

〔四〕藥劑師廢業死亡報告方

明治二十二年八月三日
內務省訓令第三十四號應府縣
藥劑師營業並藥品取扱規則第八條ニ據リ届出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月日族籍氏名並免狀番號ヲ記載シ一箇月分取纏メ翌月十日限リ當省ヘ報告スヘシ

〔五〕藥劑師試驗受驗人心得

明治二十三年二月十四日
內務省告示第七號
藥劑師試驗受驗人心得左ノ通り定ム

- 藥劑師試驗受驗人心得
- 第一條 藥劑師試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ
 - 第二條 藥劑師試驗ヲ受ケント欲スルモノハ明治二十二年三月內務省令第三號藥劑師試驗規則第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ
 - 第三條 藥劑師試驗願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試驗舉行ノ期日四日前ニ受驗地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

願書式

住所(寄留ナレハ本籍)
族籍
氏名
生年月名

私儀何年何月何地ニ於テ藥劑師試驗相受度此段奉願候也

年月日

右
氏名印
市長(三府ハ區長)若クハ町村長(市町村制ヲ實施セサル地方ハ戶長)
氏名印

〔六〕監視員巡視施行及藥種商製藥者鑑札製作費支辨方

明治二十二年三月法律第十號監視員ノ巡視ハ同年同當省令第四號ニ依リ其施行ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用監視員ノ俸給及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其總經費定額内ヲ以テ支辨スル儘ト心得ヘシ

但監視員ノ携帶スヘキ証票ハ左ノ雛形ニ準シ其總ニ於テ交附シ尚ホ之ヲ管内ニ告示スヘシ

紙製

曲尺二寸二分

表	裏
藥劑師監視員之証 中中中	廳府 縣名 印

〔七〕衛生試驗所ニ於テ検査印紙ヲ貼付スル藥品種類

明治二十三年三月十四日
內務省告示第九號
自今衛生試驗所ニ於テ検査印紙ヲ貼付スルモノハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條ノ藥品トス但第二十七條第二項ノ藥品ハ検査ノ上良品ト認メタルモノニ限ル

第八類 第一章 醫業 賣藥 藥品

〔八〕摺附木製造黃燐使用禁止ヲ廢止 明治二十三年八月九日 內務省訓令第二十八號廳府縣 明治十八年一月當省甲第一號達ヲ廢止ス

第九十六 藥用阿片賣買製造

〔一〕阿片卸シ賣特許藥舖ニ排下クル藥用阿片受拂手續中追加 明治二十三年一月四日 內務省訓令第一號北海道廳府縣 當省所管物品出納規程相定候處阿片卸シ賣特許藥舖ニ排下クル藥用阿片受拂手續ハ從前ノ通且右受拂手續第二項ノ次ノ左ノ一項ヲ追加ス

一 地方廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其保管及責任並ニ出納計算書ハ明治二十二年九月內務省訓令第三十六號內務省及所管廳物品出納規程ニ依ル

〔二〕藥用阿片受拂手續第二項ニ追加ス 明治二十三年二月二十日 內務省訓令第五號北海道廳府縣 明治二十二年三月當省訓令第六號藥用阿片受拂手續第二項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

一 北海道廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル

〔三〕藥用阿片受拂手續第五項中ヲ改正シ第六項中ヲ刪除ス 明治二十三年三月十九日 內務省訓令第十二號北海道廳府縣 明治二十二年三月當省訓令第六號藥用阿片受拂手續中明治二十三年度ヨリ左ノ通改正ス

第五項中ノ阿片受拂報告書輪形中內以下八行左ニ更正 受拂規

第六項中ハ該收入金ハ二箇月毎ニ取廻メ內務省會計局ヘ送納ノ二十三字刪除 阿片何規 明治何年三月三十一日現在高

〔四〕製藥免許手續ヲ廢ス 明治二十二年六月二十二日 內務省訓令第二十八號廳府縣

第二章 傳染病豫防

第九十七 陸軍部內傳染病豫防規則 明治二十二年十二月二十八日 陸軍部內傳染病豫防規則左ノ通定ス

陸軍部內傳染病豫防規則 陸軍部內傳染病豫防規則

第一條 陸軍部內傳染病豫防ノ方法ハ明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則ノ外尚左ノ條項ニ據ルヘシ

第二條 部隊ニ於テ傳染病發生シ又ハ其近傍地方ニ傳染病流行ノ兆アリテ傳染病豫防規則第三條ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ部隊長ハ速ニ之ヲ所管長官ニ申告スヘシ

第三條 所管長官前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ都督師團長ハ軍醫長ノ意見ヲ問ヒ其他ノ長官ハ其地所管ノ師團軍醫長ノ意見ヲ問ヒ以テ豫防ノ方法ヲ計畫シテ之ヲ施行スヘシ若シ病勢蔓延ノ兆アルトキハ其景況ヲ陸軍大臣ニ關申スヘシ

第四條 部隊長ハ其部隊又ハ近傍地方ニ於テ傳染病流行シテ其勢ヒ猖獗ナルトキハ豫防委員ヲ編成シ豫防消毒等ニ係ル事務ニ專任セシムヘシ

第五條 部隊附醫官ハ傳染病ノ流行ニ際シ豫防上必要ト認ムル事項ニシテ施行上部隊ト地方トニ交渉スルモノハ其事由ヲ詳ニシテ該部隊長ニ申告シ部隊長ハ所管長官所在地ニ在テハ該長官ヲ經テ 地方官若クハ市町村長ニ協議シテ之ヲ處分スヘシ

第六條 部隊附醫官ハ其部隊ニ於テ傳染病者アルトキハ該病者ヲ製シ當該軍醫長ニ報告スヘシ

第七條 所管長官ハ新兵ノ入營又ハ豫備後備ノ下士兵卒ヲ召集スルニ際シ其部隊ニ於テ傳染病流行シ又ハ入營召集ニ應スル者ノ郷里若クハ通過スヘキ宿驛ニ傳染病流行スル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ入營召集ヲ延期スルコトヲ

第八章 第二章 傳染病豫防

乙第五十四號 達八初編第百 十八ノ二項ニ 掲ク

十三年第百三十 四號布告ハ初 編第百二十二 掲ク

得

第八條 部隊長ハ入營スル新兵又ハ召集ニ應シタル豫備後備ノ下士兵卒ニシテ郷里田舎ノ際傳染病流行セシカ又ハ流行ノ地ヲ通過シ若クハ其病者アル船舶汽車ニ乗込ミシコトアル者ハ醫官ヲシテ事實ヲ調査セシメ感染ノ疑アルトキハ先ツ隔離所ヲ設ケ若干日間之ニ停留セシムヘシ

第九條 部隊附醫官ハ其部隊ニ於テ傳染病蔓延ノ虞アリテ健兵ヲ營外ニ隔離スルヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ部隊長ニ申告スヘシ而シテ部隊長ハ之ヲ所管長官ニ申請シ都督師團長ハ軍醫長ノ意見ヲ問ヒ其他ノ長官ハ其地所管ノ師團軍醫長ノ意見ヲ問ヒ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ決行スヘシ

第十條 病院長 病室ハ高ハ避病院ノ設置ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ衛戍司令官教導團長又ハ部隊長ニ稟申スヘシ而シテ此各官 衛戍司令官ヲ除クハ所管長官ニ申請シ都督師團長ハ軍醫長ノ意見ヲ問ヒ其他ノ長官ハ其地所管ノ師團軍醫長ノ意見ヲ問ヒ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ設置スヘシ

第十一條 避病院ノ設アル地方ニ在テハ所管長官ハ時立ニ依リ地方官若クハ市町村長ニ協議ノ上該院ノ一部ヲ借用スルコトヲ得

地方官若クハ市町村長ヨリ陸軍避病院ノ一部ヲ借用センコトヲ請求スルトキハ所管長官ハ之ヲ貸與スルコトヲ得

地方避病院ヲ借用スルトキ又ハ陸軍避病院ヲ貸與スルトキハ相當ノ費用ヲ分擔スルコトヲ約スヘシ

第十二條 部隊長ハ其部隊又ハ所在地ニ於テ傳染病流行スルトキハ下士以下ノ遊歩ヲ禁シ又ハ其景況ニ依リ遊歩地ヲ限

前項ノ場合ニハ營外ノ者ヲシテ限ニ營内ニスラシムヘカラス且病者附著ノ疑アル物品ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ營内ニ於テ使用スヘカラス

第十三條 傳染病者ノ排泄物及汚穢物ヲ焼却シ又ハ埋却スルニハ一定ノ場所ニ於テスヘシ但地方所定ノ場所ニ之ヲ運搬スルトキハ部隊ヨリ地方官若クハ市町村長ニ協議スヘシ

第十四條 營外居住ノ軍人軍屬ニシテ自己傳染病ニ罹ルカ若クハ其家族中ニ傳染病者アルトキハ所屬長官ノ認可ヲ得ルニアラサレハ出務スヘカラス但其豫防消毒等ノコトハ普通ノ成規ニ據ルヘシ

第十五條 師團司令部所在地外ノ部隊ニ於テ本則第九條第十條ノ手續ヲ經ルニ迫ナキトキハ部隊長先ツ之ヲ處置シ然ル後其事由ヲ具中スルコトヲ得

第十六條 本則ハ傳染病豫防規則第一條ノ六病ニ就テ其取扱ヲ示ス爾餘ノ傳染病ニシテ流行ノ兆アルトキモ亦本則ヲ適用スルコトアルヘシ

第十七條 屯田兵ニ在テモ本則ヲ適用ス

(二) 海軍軍人虎列刺病ニ罹ル者取扱手續中改正 明治二十三年五月二十三日 海軍省令第九號

明治十九年七月省令第七十四號海軍軍人虎列刺病ニ罹ル者取扱手續中五百倍昇汞水及千倍昇汞水ヲ「石灰乳」ト改メ亞硫酸鹼法ヲ「石炭酸蒸法」ト改メ第二十五條ヲ左ノ通改正ス

(三) 傳染病豫防心得達廢止 明治二十三年十月十一日 内務省訓令第三十四號廳府廳

明治十三年九月省令第三十六號達廢ス

七十九年省令第七十四號ハ初編第百二十ノ七項ニ掲ク

第三十六號ハ初編第百六十ノ三項ニ掲ク

○第九類

○第一章 新聞紙條例 欠

○第二章 出版

〔第九十八〕 出版條例

〔一〕明治二十一年內務省令第一號及第三號中改正追加明治二十三年三月二十五日
內務省令第一號

明治二十一年內務省令第一號及第三號中左ノ如ク改正追加シ本年四月一日ヨリ施行ス

內務省令第一號

第七條 版權登錄料並登錄證再度下付手数料ハ現金ヲ願書ニ添ヘ納付スヘシ

現金ハ爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得此場合ニ於テハ內務省總務局圖書課宛東京郵便電信局支拂ノ郵便爲替券ヲ願書ニ添ヘ納付スヘシ

前項ノ版權登錄料並手数料ヲ納付スルトキハ版權登錄願又ハ登錄證再度下付願ノ外ニ第八書式ニ準シ納付書ヲ提出スヘシ

第三書式 用紙美濃陸半裁

版權登錄願

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自筆何號
玉筆何號

右今般出版致候條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢(東京郵便電信局支拂ノ郵便爲替券)相添此段相願候也

年月日

道廳何府何郡何町何番地

版權所有者 氏 名 印

内務大臣(前)何誰殿

第四第五及第七書式ハ前同斷
左ノ書式ヲ追加ス

第八書式 用紙半紙膠半裁

記

一金何圓錢也

右書名版權登錄(登録証再度下付手數)料トシテ相納候也

年月日

住所

版權所有者 氏 名 印

内務省總務局圖書課

御 中

内務省令第三號

第三條 第一條ノ手數料並第二條ノ免許料ハ現金ヲ以テ納付スヘシ

現金ハ爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得此場合ニ於テハ内務省總務局圖書課宛東京郵便電信局支辨ノ郵便爲替券ヲ以テ納付スヘシ

前項ノ手數料並免許料ヲ納付スルトキハ内務省令第一號第八書式ニ準シ納付書ヲ差出スヘシ

(二) 一枚摺畧曆出版規定 第三ノ一 項ニ掲ク

(三) 版權登錄及免許料手數料等納附時間 明治二十三年三月二十五日 内務省告示第十一號

版權登錄料版權免許料並登録証再度下付手數料版權免許證明書下付手數料納付ノ爲メ現金持参スルモノハ左ノ時間タルヘシ

四月二十日ヨリ七月十日迄	午前八時ヨリ午後二時ニ至ル
七月十一日ヨリ九月十日迄	午前八時ヨリ同十一時ニ至ル
九月十一日ヨリ四月十九日迄	午前九時ヨリ午後三時ニ至ル

○第十類

○第一章 社寺 神職

第九十九 神社

〔一〕官國幣社保存金配附年限 明治二十三年十一月二十七日
官國幣社保存金配付ノ年限ハ更ニ明治二十年度ヨリ三十年間トス

〔二〕招魂社へ受持神官墳墓へ監守ヲ置キ該費收支ヲ取扱ハシム 明治二十三年三月十三日
内務省訓令第八號北海道廳府縣(奈
良群岡山梨島根和歌山徳島愛媛
島愛媛沖繩ノ八縣ヲ除ク)

〔三〕招魂社費並招魂社管轄費取扱順序 明治二十三年三月十三日
内務省訓令第九號北海道廳府縣(奈良群岡山梨島根和歌山徳島愛媛
沖繩ノ八
縣ヲ除ク)

招魂社費並招魂社管轄費取扱順序左ノ通相定ム二十三年度以降右ニ照準取扱フヘシ
招魂社費並招魂社管轄費取扱順序
一 招魂社費並招魂社管轄費ノ内招魂社ニ屬スル金額ハ該招魂社受持神官(下渡スヘシ)
一 招魂社管轄費ノ内墳墓ニ屬スル金額ハ墳墓監守者(下渡スヘシ)
一 二十二年度以前該費ニ係ル殘金ハ各自ニ計算相立下渡スヘシ
但從前一管內彼此流用支出セシ金額ハ其儘打切互ニ償還ヲ爲スニ及ハス
一 招魂社管轄費金ノ殘額ハ後來不足補充ノ爲メ積立單大藏省預金局又ハ郵便省爲換貯金局へ預入ヲ爲サシムヘシ

- 一 招魂社位墳墓へ寄附金額モ右ニ準シ取扱ハシムヘシ
- 一 招魂社位墳墓へ下渡金額ノ出納ハ其地方廳ニ於テ嚴密監督スヘシ
- 一 招魂社位墳墓費金ノ收支ハ毎年度末ノ計算書並田サセ七年度經過後二箇月ヲ限リ地方廳ヨリ内務省へ報告スヘシ
- 〔四〕 社寺上地官林委託規則 第百八十一ノ二項ニ掲ク

〔第百〕 神宮職員官等表中祭主ノ欄ニ追加ス 明治二十三年一月七日公布 勅令第一號

朕茲ニ神宮職員官等表中追加ノ件ヲ裁可ス 御名 御璽

明治二十三年一月四日 内閣總理大臣兼内務大臣伯爵山縣有朋 勅令第一號

神宮職員官等表中祭主ノ欄ニ左ノ通追加ス 祭主ハ皇族ヲ以テ之ニ任ス

〔二〕 神宮職員官等表中主典及宮掌ノ官等ヲ改ム 明治二十三年十二月二十二日 公布 勅令第二百八十五號

朕茲ニ神宮職員官等表中改正ノ件ヲ裁可ス 御名 御璽

明治二十三年十二月二十二日 内閣總理大臣伯爵山縣有朋 内務大臣伯爵西郷從道

勅令第二百八十五號

神宮職員官等表中主典ノ官等ヲ四等ニ宮掌ノ官等ヲ五等ニ改ム

〔二〕 熱田神宮神職増置 明治二十三年三月十九日公布 勅令第二百二十八號

朕熱田神宮神職増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 御名 御璽

明治二十三年三月十八日 内務大臣伯爵山縣有朋 勅令第二百二十八號

官國幣社神職中熱田神宮ニ限リ左ノ神職ヲ増置ス 權宮司 宮掌

權宮司

權宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補シ宮掌ハ地方廳ニ於テ之ヲ補ス 權宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ宮司ノ次トス宮掌ハ判任ノ待遇ヲ受ケ主典ノ次トス

〔三〕 出雲大社神職増置 明治二十三年七月四日公布 勅令第二百十七號

朕出雲大社神職増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 御名 御璽

明治二十三年七月三日 内務大臣伯爵西郷從道 勅令第二百十七號

官幣大社出雲大社へ左ノ神職ヲ増置ス

權宮司

權宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補ス

權宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ宮司ノ次トス

〔第一百一〕宗規

〔一〕神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニ付出願方

明治二十二年五月二十七日
内務省訓令第二十二號

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續

ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

○第十一類

○第一章 會計 出納

〔第一百二〕會計検査院法 明治二十二年五月十日公布
法律第十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年五月九日

内閣總理大臣伯耆黒田清隆

法律第十五號

會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長二員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ

判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第十一類 第一章 會計 出納

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルハコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス
第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

- 一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
 - 二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ
 - 三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
 - 四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
 - 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ
- 第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

二十三年法律第七十號(第一項) 參照

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス
第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
 - 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
 - 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
 - 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
- 第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
 - 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ
 - 三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ
- 第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得
- 第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スル

コトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ
前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ
之ヲ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受
ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ
發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限
ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏
ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此
ノ場合ニ於テハ豫メ本廳長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムル
コトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキ
ハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又

ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本廳長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム
第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ實ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本廳長官
之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院
ハ本廳長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テ
ハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルト
キハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコ
トヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(二)會計検査院事務章程 明治二十二年九月二十五日公布
勅令第百六號

朕會計検査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年九月二十四日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第六號

會計検査院事務章程

第一章 部課

第一條 會計検査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ケ

各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ検査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條 會計検査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章 會議

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條 總會議ハ現員會計検査官三分ノ二以上部會議ハ半数以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セズ

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

検査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計検査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條 總會議及部會議ハ課長ノ査閱ヲ經タル検査官補ノ報告書若ハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章 職員及權限

第七條 院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敘位敘勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ増俸賞與ヲ行フ

第九條 検査官ハ奏任四等以上トシ検査官補ハ奏任四等以下トス

第十條 會計検査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一 各部及各課管理ノ事務ヲ定ム

第二 職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三 検査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四 臨時屬官ニ指命シテ検査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得

第五 特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

第六 奏任以下ノ官吏ニ派出検査ヲ命ス

第七 検査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム

第八 議事ニ關ル細則ヲ定ム

第九 會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

第十一類 第一章 會計 出納

第十 庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム

第十二條 院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若キノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ
第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條 總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セズ其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條 院長ハ檢査ノ精覈ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽査ヲ行フヘシ

第十八條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一 所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽査シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二 檢査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三 部中檢査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四 部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條 部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條 課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條 課長ハ課中檢査官補ノ調製スル文書ヲ査閲シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付

シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ検査官補ノ責任ニ屬スルモノ、外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條 課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條 課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計検査院法第十四條及第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ検査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條 検査官補ハ計算書證憑書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル。検査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ検査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條 検査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス

第三十條 検査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第四十條 行務

第三十二條 屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第三十三條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條 會計ノ検査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一 命令官決算ノ檢定

第二 出納官吏計算ノ検査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ検査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

右ノ外會計検査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ検査判決ハ其ノ主管者ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條 會計検査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一 不合规ノ件ニ對スル批難

第十一類 第一章 會計 出納

- 第二 將來ノ措置ニ對スル注意
- 第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問
- 第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス
検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ
出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス
- 第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ
- 第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ
- 第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ
- 第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル
- 第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ
- 第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ
- 第三 新ニ證據書ヲ發見シタルトキ

- 第四 正當ナラサル證據書ニ據リ判決シタルトスルトキ
- 第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ
- 第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ
- 第四十五條 會計検査院ハ検査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得
- 第二 會計検査官資格 明治二十二年六月六日公布
勅令第八十號
朕會計検査官資格ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月五日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆

勅令第八十號

- 會計検査院法第六條ニ依リ會計検査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
- 第一 年齢滿三十歲以上ノ者
- 第二 五年以上検査官補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

第百三 會計法

〔一〕會計法補則 明治二十三年八月四日公布

法律第五十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

- 内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
- 内務大臣 伯爵西鄉從道
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 遞信大臣 伯爵後藤象二郎
- 外務大臣 伯爵青木周藏
- 海軍大臣 伯爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

法律第五十七號

會計法補則

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
 - 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
 - 三 賞勳年金及褒賞費
 - 四 外國條約及約束ニ依レル支出
 - 五 各廳ノ廳費及經常修繕費
- 第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

- 一 帝國議會經費
- 二 裁判所並會計検査院經費
- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
- 四 徵兵費
- 五 徵稅費 証券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代
- 六 囚徒費
- 七 遞信事業及航路標識費
- 八 内外國難破船費
- 九 沖繩縣及小笠原島地方費
- 十 備荒儲蓄

- 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子
 - 十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歲出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

(二)會計特別整理ノ件 明治二十三年二月十七日公布
法律第十一號

朕明治二十二年會計特別整理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年二月十五日

內閣總理大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯耆松方正義

法律第十一號

第一條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第二條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第三條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第四條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第五條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第六條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第七條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第八條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第九條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第十條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

第十一條 明治二十二年會計特別整理ノ件ニ依リ明治二十三年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

會計法ハ二十二年法律第四號(初編第四百三十二)ヲ以テ頒布ス

第十一類 第一章 會計 出納

會計規則八十二
十二年勅令第
六十號(第百
三ノ十二項)
ヲ以テ頒布ス
二十三年農商
務省訓令第百
八號(第百八
ノ五十三項)
參看

第三條 明治二十二年度ニ於テ官廳ニ交付シタル現金ニシテ明治二十三年三月三十一日ニ仕拂殘トナリタルモノハ總テ明治二十三年度ノ歳入ニ納付スヘシ

第四條 現行會計法規ニ據リ明治二十二年度ニ屬スヘキ經費ニシテ明治二十三年三月三十一日前ニ仕拂切符ヲ發シ難キモノハ其定額ヲ明治二十三年度ニ繰越シ整理スヘシ但本規則第六條ニ據リ繰越スモノハ此限ニアラス

第五條 前條ニ據リ繰越ヲナサントスルトキハ會計規則第五十七條ニ據リ繰越計算書ヲ以テ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

前項繰越計算書ニハ各債主毎ニ金額ヲ區分シ債主ノ氏名及仕拂切符發行遲延ノ事由ヲ示スヘシ但國債元利ノ繰越計算ニハ債主ヲ區分セズ公債ノ種類ヲ區分シ仕拂遲延ノ事由ヲ示スヘシ

第六條 明治二十二年度ノ豫算定額ニシテ會計法第二十一條第二十二條ニ該當スルモノアルトキハ同條ニ準據シテ明治二十三年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 前條ニ據リ繰越ヲナサントスルトキハ會計規則第五十七條第五十八條ノ手續ニ準據スヘシ

第八條 明治二十二年度豫算ノ繰越ニ係ル歳入歳出ハ明治二十三年度所屬ノ分ト明ニ區分ヲ立テ之ヲ整理スヘシ

第九條 大藏大臣ハ本規則第四條第六條ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通

知スヘシ

第十條 明治二十二年度ノ經費ニシテ明治二十三年一月一日以後ニ仕拂切符ヲ發シ同年三月三十一日マテニ現金ノ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ明治二十三年四月一日以後滿五箇年間ハ仕拂切符所有者ノ請求ニ應ジ金庫ニ於テ仕拂フヘシ

第十一條 明治二十二年度以前ノ國債元利恩給ノ仕拂元金及明治十八年度以前ノ經費ニ係ル引出切符ニシテ明治二十三年三月三十一日マテニ債主ニ仕拂了ラサルモノハ會計規則第四十七條ニ準據シ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シ整理スヘシ

(三) 整理公債ニ關スル特別會計設置ノ件 明治二十三年三月一日公布
法律第十四號
整理公債ニ關スル特別會計設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年二月二十八日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
大藏大臣 伯耆松方正義

法律第十四號

第一條 整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 整理公債募集金ノ毎年度内ニ他ノ公債償還ニ供セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

第十一類 第一章 會計 出納

整理公債條例
ハ初編第百六
十八ニ掲ク

第三條 整理公債條例第三十一條ニ依リ支出スル製造費發行費及利息ノ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第四條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

〔四〕紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月二十八日公布 法律第二十四號

朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十四號

紙幣交換基金特別會計法

第一條 從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置キ漸次之ヲ交換セシム

第二條 政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之ヲ紙幣交換基金ニ組入ルヘシ

政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ組入ルヘシニ
三年七月二十九日法律第五十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第三條 紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

二十三年勅令
第六十八號
(第四百三)十
八項(參看)

第四條 毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條 紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

〔五〕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月二十八日公布 法律第二十五號

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十五號

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

第十一類 第一章 會計 出納

同上

〔六〕作業會計法 明治二十三年三月十八日公布

法律第十七號

朕作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第十七號

作業會計法

第一條 左ノ作業所ハ共事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業直接ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム但事務ニ屬スル作業間接ノ費用ハ總テ一般ノ會計ニ依ラシム

第一 造幣局

第二 印刷局

第三 富岡製絲所

第四 電信燈臺用品製造所

第五 廣島鑛山

第二條 各作業所ニ於テ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物軌道其他築造道路船舶機械永遠保存品其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トナシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置

運轉資本トス

第三條 各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第四條 固定資本ノ維持修理及補充ハ作業所特別會計ノ歲入ヲ以テ支辨スヘシ

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

〔七〕陸軍作業會計法 明治二十三年三月十八日公布

法律第十八號

朕陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山 巖

二十三年勅令
第三百三十一號
第五項(第六項)

法律第十八號

陸軍作業會計法

- 第一條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置・運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
- 第三條 東京及大阪砲兵工廠ハ職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス
- 第四條 千住製絨所ハ俸給諸給旅費廳費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物ノ維持修理費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス
- 第五條 各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス
- 第六條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

同上

- 第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得
- 第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ルハトキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

〔八〕鎮守府造船材料資金會計法 明治二十三年三月十八日公布
 法律第十九號
 朕鎮守府造船材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

內閣總理大臣 伯耆山縣有朋
 海軍大臣 伯爵西鄉從道
 大藏大臣 伯爵松方正義

鎮守府造船材料資金會計法

- 第一條 鎮守府造船工場ニ於テ船舶ヲ製造修理スル爲メニ要スル材料貯蓄ノ資本トシテ造船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 造船材料資金ハ從來横須賀鎮守府小野濱造船所ニ備ヘタル營業資本ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ
- 第四條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損滅ハ豫メ步合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ
- 第五條 每會計年度ニ於テ造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ
- 第六條 政府ハ毎年造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

〔九〕官設鐵道會計法 明治二十三年三月十八日公布
法律第二十號

二十三年勅令
第三十四號
(第百三)十
六項)第百

朕官設鐵道會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十號

官設鐵道會計法

- 第一條 鐵道事業ヲ經營スル爲メ固定資本據置運轉資本ヲ置キ營業上ノ收入及其附屬雜收入ハ鐵道事業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 鐵道事業ノ爲メ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地軌道車輛停車場工場家屋機械其他重要ナル器具ハ其固定資本トシ從來ノ流動資本ハ其據置運轉資本トス
- 第三條 鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費並ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歳出トス
- 第四條 鐵道事業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ
- 第五條 政府ハ毎年鐵道事業ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第六條 鐵道事業ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及據置運轉資本ノ合計額ヲ超

第十一類 第一章 會計 出納

過スルヲ許サス

第七條 災害事變ニ因リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ豫算定額ヲ以テ修理スルニ足ラサル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ鐵道事業ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條 鐵道事業ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

二十三年勅令
第三百三十三號
(第五百三)十
五項(第六)十

〔十〕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計

明治二十三年三月十八日公布
法律第二十一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十一號

第一條 中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

二十三年勅令
第七十七號

(第五百五)一
項(第六)十

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ排出スヘシ

第四條 預金局預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 預金局預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ排出スヘシ

第六條 郵便貯金預所貯金ハ預金局ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第四百七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金ハ一般ノ歲入ニ組入ルヘシ

第九條 預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵便爲替金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

〔十一〕官立學校及圖書館會計法

明治二十三年三月二十八日公布
法律第二十六號

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

第十一類 第一章 會計 出納

大藏大臣 伯耆松方正義
文部大臣 子爵榎本武揚
農商務大臣 岩村通俊

法律第二十六號

官立學校及圖書館會計法

- 第一條 文部省直轄學校及圖書館並農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄付金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄付シタル動産不動産及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス
- 第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支其他寄付者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス
- 第四條 學校及圖書館ノ寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ
- 第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二十三年勅令
第五百三十三號
(第九十三)十
七項)參看

二十三年內務
省訓令第十號
(第九十四)ノ
二項)ヲ以テ
內務省所管ニ
係ル取扱方ヲ
定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

〔十二〕會計規則 明治二十二年五月一日公布

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年四月三十日

內閣總理大臣 伯耆黑田清隆
大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第六十號

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歲入歲出金出納

- 第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル
 - 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
 - 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
 - 第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第二條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル
 - 第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第十一類 第一章 會計 出納

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモハ契約ニ據リ定メタル
仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ
所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歲入歲出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度八月三十一日限リトス

第二章 豫算

第一款 總豫算
第四條 大藏大臣ハ歲入ノ長況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ
調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明示スヘ
シ

第六條 歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘ
シ

第七條 歲入歲出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定
經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各
目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基
ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ
付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕
拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要スル金額理由ヲ詳具スル所ノ計
算書ヲ作リ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ

通知スヘシ

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ
歳入ノ部

歳入豫算額

測定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣共計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ收入ノ目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領收證ハ收入官吏ヨリ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付シ別符ヲ切離セシメ其檢印ヲ受クヘシ

第二十九條 納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付シタルトキハ收入官吏ハ金庫ヨリ納人ニ交付シタル領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納人ニ返付スヘシ

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

二十三年內務省訓令第十號(第四百三ノ四十二項)參照

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額支出科目年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定済」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テ

第十一類 第一章 會計 出納

二十三年大藏省訓令第十一號(第四百三ノ二十八項)參照

タル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラズ仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スルトキハ會計主務官ハ仕拂命令ニ「特命調定」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第二十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク

分制シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第二 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以內ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スマメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限り

トス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レヌ國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ調製シ

四十二項内務省訓令

参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第二十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタ

第十一類 第一章 會計 出納

ル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 收入計算
- 第二 支出計算

- 第三 最近五箇年度間資金ノ増減
- 第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ、本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額
- 第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額
- 第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度

ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添エヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第二款 過年度支出

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ
第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第十一類 第一章 會計 出納

第一 戻入ルヘキ金額

第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付

第三 前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付

第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月二十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ

四十二項内務省訓令

二十二年内務省訓令第四十(第四百三十一項)

其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物

件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ

達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシ

テ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕

譯落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナ

ル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スル

ニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未

滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計仕譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スル

コトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 會計主務官收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其

責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキ其代理官

ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十

六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海

軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合

ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得
第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由
アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院
ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス
會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨
償金ハ直キ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨ
リ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月
三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘ
シ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス
大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收
入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル
能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタ
ルトキハ其檢定書ニ通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ
該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌
スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラヌ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公
金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七箇月以
内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ
添へ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計
算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添へ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ
執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添へ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事
務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證據書類ハ毎年度經過後
一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ
送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定

四十二項内務
省訓令

同上

同上
省訓令
十項

二十三項
百八ノ四
及四十二
務者訓令

同上

▲ル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

二十三年大藏省訓令第九號(第百三ノ六)
十項(第百三ノ六)

二十三年勅令(第百六)
同(第百六)
同(第百六)

第三百二條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第三百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第三百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辦償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辦償ヲ爲サハルトキハ其身元保證金ヲ以テ辦償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辦償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辦償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辦償セシムヘシ

第三百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辦償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徵收スヘシ

第三百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辦償ニ充

ツヘシ

第百八條

出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第百九條

出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ

高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第百十條

出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第百十一條

會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査

院ニ送付スヘシ

二十二年大藏省訓令第七十一號(第百五ノ二項)参照

第九章 帳簿

第百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十七條 各省中央會計主務官ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ歳出豫算額、仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十一類 第一章 會計 出納

第十章 雜則

第二百十條 本規則ニ據リ會計主務官收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

二十二年大藏省令第十一號
（第百三十一號）
十五項（第百三十一號）

第二百一十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

〔十三〕物品會計規則 明治二十二年六月十二日公布

勅令第八十四號

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月十一日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
大藏大臣 伯爵 松方正義

勅令第八十四號

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一

二十二年九月
大藏省訓令第

六十號（第百三十一號）
（第百三十一號）
三ノ四十九
項）ヲ以テ内
國稅徵收所
屬物品會計規
程ヲ定ム

切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

第十一類 第一章 會計 出納

六百九十九

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 各省大臣ハ一般ノ會計規則ニ據ルモノト特別ノ會計規則ニ據ルモノトヲ區分シ毎年度間ニ買入生産及其ノ他政府ノ所有ニ歸シタル物品ト消耗賣拂亡失毀損又ハ生産ノ爲メニ消費シ其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ年度後六箇月以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ但シ官有財産管理規則ニ據リ送付スル計算書ニ掲クルモノヲ除ク

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

二十四年會計検査院第一號(第百八ノ二十四項)參

物品會計官吏交替ヲナシタルトヤ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

〔十四〕會計年度開始前現金支出規則 明治二十二年七月十三日公布 勅令第九十五號

二十三年勅令第四號(第百六ノ六)參

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第九十五號

會計年度開始前現金支出規則

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三條 前各條ニ定メタルモノ、外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

〔十五〕作業及鐵道會計規則 明治二十三年三月二十日公布

勅令第三十三號

朕作業及鐵道會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

陸軍大臣伯爵大山巖
逓信大臣伯爵後藤象二郎
農商務大臣 岩村通俊

勅令第三十三號

作業及鐵道會計規則

第一章 歳入歳出

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歳入トス

第一 作業上ノ收入

第二 附屬雜收入

第二條 造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス

第一 技術員ノ俸給諸給旅費

第二 職工人夫ニ給スル諸費

第三 作業用器具機械ノ維持修理及補充費

第四 材料素品購入代

第五 動力費

第六 作業場用備品消耗品費

第十一類 第一章 會計 出納

- 第七 建物築造道路船舶ノ維持修理及補充費
- 第八 損失金
- 第三條 東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
 - 第一 職工人夫ニ給スル諸費
 - 第二 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
 - 第三 材料素品購入代
 - 第四 機械運轉用品購入代
 - 第五 作業場用備品消耗品費
 - 第六 損失金
- 第四條 千住製絨所ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
 - 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費
 - 第二 事務所費
 - 第三 職工人夫ニ給スル諸費
 - 第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
 - 第五 材料素品購入代
 - 第六 機械運轉用品購入代
 - 第七 作業場用備品消耗品費

- 第八 生産品販賣諸費
- 第九 土地建物ノ維持修理費
- 第十 損失金
- 第五條 鐵道事業ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
 - 第一 營業ニ從事スル職員ノ俸給諸給旅費
 - 第二 職工人夫ニ給スル諸費
 - 第三 鐵道築造物建物車輛器具機械ノ維持修理及補充費
 - 第四 材料素品購入代
 - 第五 汽車及機械運轉用品購入代
 - 第六 營業事務所停車場機械場客車用備品消耗品費
 - 第七 損害賠償金
 - 第八 訴訟費
 - 第九 手数料保險料借料廣告料謝金外國注文品監査費其他營業上ノ雜費
 - 第十 運輸收入割戻金
 - 第十一 損失金
- 第二章 豫算決算
- 第六條 歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定

經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歳入ノ性質歳出ノ用途ヲ明示スヘシ

第八條 所管大臣ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章 收入支出

第十條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

各省大臣ハ作業支部局長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第十一條第十二條第十三條ニ依ルヘシ

第十一條 豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條第二十條第二十四條ニ依ルヘシ

第十二條 作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ收入ヲ取扱フヘシ

第十三條 作業所ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以

二十三年大藏省訓令第六十三號(第五百五ノ八項)参照

テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此仕拂元受高ヲ超過スルヲ得ス

第十四條 作業事務長又ハ作業支部局長ハ歳出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第十五條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレ

ハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但俸給諸給ヲ除キ支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕拂ヲナス經費職工人夫ノ給料諸手当ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

第十六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤヲ調査スヘシ

第十七條 仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給諸給ニ限リ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ

第十八條 仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第十九條 各年度ノ歲出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス
第二十條 現金前渡ヲ受タル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則
第四十三條第四十五條第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十二條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノ
ハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサル
モノハ支出未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル
ル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未濟ノ繰越額ハ支出調定濟額ト合シテ豫算定額ヲ
超過スルヲ得ス

第二十四條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ
仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ヘ繰越シ第十八條ノ規程ニ依リ仕拂ヲナス
ヘシ

第二十五條 前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其期
滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二十六條 收入官吏ハ其取扱タル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ

同上

調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
但作業支部局ノ收入官吏ハ其收入報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ收入官吏
ニ送付スヘシ

第二十七條 作業事務本局ノ收入官吏ハ作業全部ノ收入合計表ヲ調製シ諸收入官吏ノ收
入報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十八條 會計主務官ハ其調定シタル支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月支出報告
書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付
スヘシ但作業支部局ノ會計主務官ハ其支出報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ會
計主務官ニ送付スヘシ

第二十九條 作業事務本局ノ會計主務官ハ作業全部ノ支出合計表ヲ調製シ諸會計主務官
ノ支出報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 資本
第三十條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム
一 土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキ
トキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

二 建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築

第十一類 第一章 會計 出納
七百九

費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評
定價格ノ平均ニ依ル

三 材料素品機械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

四 生産品ハ生産費ニ依ル但賣買ノ契約濟トナリタルモノハ其賣渡代價ニ依ル

第三十二條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第三十三條 公衆ノ用ニ供スル鐵道ノ固定資本ハ毎五年ニ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評
定價格ノ平均ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第三十四條 建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠
保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再
ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第三十六條 材料素品機械ノ運轉用品ノ年度内未消費ニ屬スルモノ市價ノ低落又ハ毀損
變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘ
シ

第三十七條 生産品ノ年度内未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生産法ノ改良又ハ毀損變質
等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生産費以下トナルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又

ハ當年度ノ生産費ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十八條 材料素品機械ノ運轉用品生産品其他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總
テ損失トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第五章 受拂勘定

第三十九條 受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歲入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 掘置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總生産品ノ價格

第五 總材料及素品ノ價格

第六 總機械運轉用品ノ價格

第七 作業場用總備品ノ價格

第八 代價支出濟未收物品ノ價格

第四十條 排出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歲出ノ支出調定濟額

第二 支出未濟額

第三 掘置運轉資本額

第十一類 第一章 會計 出納

- 第四 賣拂代價收入済物品ノ價格
- 第五 賣拂代價收入未済既出物品ノ價格
- 第六 消費シタル材料及素品ノ價格
- 第七 消費シタル機械運轉用品ノ價格
- 第八 損失ニ歸シタル物品ノ價格
- 第九 損失金

第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第四十二條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第四十三條 出納官吏ニ關スル規則ハ第四十四條ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル

二十三年勅令
第四號(第百
六)同年大藏
省令第二號
(第百六)ニ
基キ

第四十四條 會計規則第九十五條ノ例ニ依リ會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ所屬省又ハ事務管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第八章 帳簿

第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入済額收入未済

額歳出ノ豫算額仕拂元受高確定額支出済額支出未済額ヲ登記スヘシ

第四十六條 作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第四十七條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入済額收入未済額ヲ登記スヘシ

第四十八條 會計主務官ハ支出簿測定總計簿ヲ備ヘ支出簿ニハ歳出ノ豫算額確定額支出測定済額支出測定未済額ヲ登記シ測定總計簿ニハ仕拂元受高支出測定済額ヲ登記スヘシ

第四十九條 收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏現金ヲ出納スル場合ニ於テハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第五十條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五十一條 前條ノ外本規則ニ掲グル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第五十二條 此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鐵山、東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨所及鐵道ヲ謂フ

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務長トハ鐵道局長、造幣局長、印刷局事務長、富岡製絲所長、東京砲兵工廠提理、大阪砲兵工廠提理、千住製絨所長ヲ謂フ

第十一類 第一章 會計 出納

二十三年大藏
省令第九號
(五十五項)參
看

電信燈臺用品製造所及廣島鐵山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス
第五十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

〔十六〕鎮守府造船材料資金會計規則 明治二十三年三月二十日公布
勅令第三十四號

朕鎮守府造船材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三十四號

鎮守府造船材料資金會計規則

第一條 造船材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歲入トシ材料購入代及損失金ヲ以テ歲出トス

第二條 造船材料資金ノ歲出ハ實際ノ歲入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條 歲入歲出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル但作業事務長ノ職務ハ主計部長之ヲ行フヘシ

第五條 貯蓄材料ノ價格ハ總テ購入及改製代價ヲ以テ計算スヘシ

二十三年大藏省訓令第六十八號(第百五十八項)ニ掲グ

第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ購入代價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ

第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ毎年前々年度ノ損減高ニ基キテ定ム

第八條 歲入額收入未濟額資金ニ屬スル現金ノ持越高及總材料ノ價格代價支出濟未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歲出額支出未濟額資金額賣拂代收入濟材料ノ價格損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ過剩アルトキハ造船材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歲入ニ納付スヘシ

第九條 材料ノ買入不用材料賣拂ノ規程ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條 出納官吏ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條 帳簿ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル但作業所ハ主計部ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

〔十七〕官立學校及圖書館會計規則 明治二十三年三月二十八日公布
勅令第五十三號

朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第十一類 第一章 會計 出納

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
大藏大臣 伯爵 松方正義
文部大臣 子爵 榎本武揚
農商務大臣 岩村通俊

勅令第五十三號

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス

特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツ

ルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限リ用途指定者ノ同意ヲ以テ元金

ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ預金局ニ寄托スヘシ

二十三年大藏
省訓令第六十
九號(第四百六
ノ九項)參看

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不

動産公債證書其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘントスル

トキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄付ニ係ル不動産ハ寄付者ノ承

諾ヲ得ルニアラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第二章 歳入歳出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歳入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試験料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雜收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歳出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學術用器具器械圖書及標本費

第十一類 第一章 會計 出納

- 第三 授業費及試験費
- 第四 獎學費
- 第五 生徒費
- 第六 事務所費
- 第七 營繕費
- 第八 雜支出
- 第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス
 - 第一 政府ノ支出金
 - 第二 書籍借覽料
 - 第三 寄附金
 - 第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金
 - 第五 土地家屋ノ貸付料
 - 第六 雜收入
- 第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス
 - 第一 事務員ノ俸給諸給及旅費
 - 第二 圖書費
 - 第三 閱覽室費

- 第四 事務所費
- 第五 營繕費
- 第六 雜支出
- 第十一條 經常歲出ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章 豫算決算

- 第十二條 歲入歲出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ
- 第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ成ルヘク歲入ノ性質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ
- 第十六條 經費ノ所要ヲ明ニスル爲メ款項ノ金額ヲ細分シタル豫算明細書及決算明細書ヲ調製シ豫定計算書又ハ決定計算書ニ添付スヘシ

第四章 收入支出

第十一類 第一章 會計 出納

- 第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ
- 第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長又ハ圖書館長之ヲ監督スヘシ
- 第十九條 學校長又ハ圖書館長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ
- 第二十條 學校長又ハ圖書館長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス
在外國人又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買ヲ委託スル場合ニ於テハ其委託ヲナシタル在外國人又ハ旅行者ヲ請取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得
- 學術試験品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限り所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得
所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ
- 第二十一條 學校長又ハ圖書館長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要

- ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ニ述フコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ
- 第二十二條 學校長又ハ圖書館長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給生徒給與ニ限リ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得
- 第二十四條 學校長又ハ圖書館長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル
- 第二十五條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限リトス
- 第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二十七條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル
- 第二十八條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第二十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出調定濟報告書ヲ

調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
第五章 年度繰越歳入残餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ價主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未済又ハ仕拂未済トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ要スルモノ、毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシ殘額ハ總テ翌年度ヘ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラサリシモノハ第三十條仕拂未済金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未済金ハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未済及仕拂未済ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歳入中仕拂済額及繰越額ヲ扣除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第七章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入済額收入未済額歳出ノ豫算額確定額支出済額支出未済額ヲ登記スヘシ

第四十條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入済額收入未済額ヲ登記スヘシ

第四十一條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額確定額支出調定済額支出調定未済額ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第四十三條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程

様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

本規則ト抵觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

〔十八〕公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換金特別會計 明治二十三年四月五日

公布

勅令第六十八號

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年四月三日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十八號

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程ハ左ニ掲クルモノ、外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

第一 大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出

第二 豫定計算書ヲ調製シ歳入歳出總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第三 大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出決定計算書ヲ調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第四 紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ

第五 毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第六 會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第七 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

〔十九〕陸軍兵備品會計規則 明治二十四年三月十二日公布

勅令第二十二號 陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年三月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍兵備品會計規則

勅令第二十二號

御名 御璽

明治二十四年三月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍兵備品會計規則

第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス

第十一類 第一章 會計 出納

第二條 出師準備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ

- 一 兵器彈藥及各兵器並材料
 - 二 祕密圖書
 - 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具
 - 四 戰用糧秣及炊爨具
 - 五 戰用被服及裁縫具
 - 六 戰用衛生材料
 - 七 戰用獸醫材料
 - 八 戰用天幕
 - 九 陣中事務用品
- 第三條 通常兵備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ
- 一 圖書
 - 二 糧秣
 - 三 被服及裁縫具
 - 四 衛生材料
 - 五 獸醫材料
 - 六 兵營備付陣營具

第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス

第六條 出師準備品ハ近衛都督各師團長及當該長官之ヲ管理ス

第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス

第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス

第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル

第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

〔二十〕海軍兵備品會計規則 明治二十三年三月二十八日公布

勅令第六十四號

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

海軍大臣伯爵西鄉從道
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十四號

海軍兵備品會計規則

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

- 一 兵器彈藥水雷及其附屬品

第十一類 第一章 會計 出納

- 二 祕密圖書、測器海圖
- 三 艦營需品
- 四 被服、糧食
- 五 治療品

第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル
 第三條 鎮守府ニ在ル兵器彈藥水雷ノ保管出納ハ武庫主管ヲシテ掌理セシム
 第四條 物品會計規則第十四條ニ依リ大藏大臣ニ送付スル報告書及同規則第十五條第十
 七條ニ依リ會計検査院ニ送付スル計算書中兵器、彈藥水雷及其附屬品並祕密圖書、測器
 海圖ハ價格ノミヲ明記スヘシ
 兵器彈藥、水雷及其附屬品ノ數量ノ精確ハ檢閲官ノ證明書ヲ以テ保證シ祕密圖書、測器
 海圖ノ數量ノ精確ハ圖書、測器ヲ管理スル官吏ヲ統轄スル長官ノ證明書ヲ以テ保證ス
 ヘシ

第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

〔二十一〕富岡製絲所製絲ニ係ル荷爲換金處分 明治二十三年七月十二日

朕富岡製絲所製絲ニ係ル荷爲換金處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十一日

大藏大臣伯耆松方正義

勅令第二百二十四號

富岡製絲所ヨリ二十二年度以前海外ニ直輸出シタル製絲ニ關シ借入タル荷爲換金ハ二十
 三年度ニ於テ之ヲ償却シ及利子ヲ支辨スルコトヲ得

〔二十二〕政府ノ工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約 明治二十三年九
 月二日公布

勅令第百
 九十三號

朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月一日

大藏大臣伯耆松方正義

勅令第百九十三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七
 十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナ
 スコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコト
 ヲ得ス

〔二十三〕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借ノ件 明治二十三年
 十一月二十七日

日公布
 勅令第百二十七號

朕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第十一類 第一章 會計 出納

明治二十三年十一月二十六日 内務大臣伯露西郷従道

勅令第二百七十七號

鐵道廳ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其他材料素品ヲ私設鐵道會社ヨリ買上借入
又ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

〔二十四〕會計法ニ依リ前金渡概算渡ノ返納金戻入取扱規程

明治二十二年十二月二十八日
大藏省令第十六號

會計法ハ初編
第三百三十二
掲ク

會計法第二十三條但書ニ依リ前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スルノ取扱規程ヲ定ム
前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程

第一條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕排命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知
書ヲ發スヘシ

第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ミ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ
領收證ノ檢印及ヒ別符ノ切離ヲ仕排命令官ニ請求スヘシ

第三條 仕排命令官金庫ノ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シタルトキハ定額戻入ノ要求ヲナサンコトヲ本廳大臣ニ申立ヘシ

第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモノハ通常戻入金取扱手續ニ依リ返納人ヲシテ金庫
又ハ收入官吏ニ納入セシムヘシ

第五條 本規程ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ

〔備考〕
〔領收證書用紙ニハ返納ノ金額番號定期戻入ヲ要スヘキ年度科目等返納告知書發行處ニ於テ
記入スルモノトス〕
用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ枚縦四寸五分ノモノ一枚縦
横三寸三分ノモノ一枚横二寸

返納告知書

第 [何] 號 [基] 年 度 所 管 廳 [何] 返納人 [基]
雜部
一金 [何程]
右 [何] 年 [何] 月 [何] 日 限リ [何地金庫] へ返納スヘシ
明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日
仕排命令官 [官氏名] 印

第 [何] 號 [基] 年 度 所 管 廳 [何] 返納人 [基]
雜部
一金 [何程]
右 領收候也

第十一類 第一章 會計 出納

